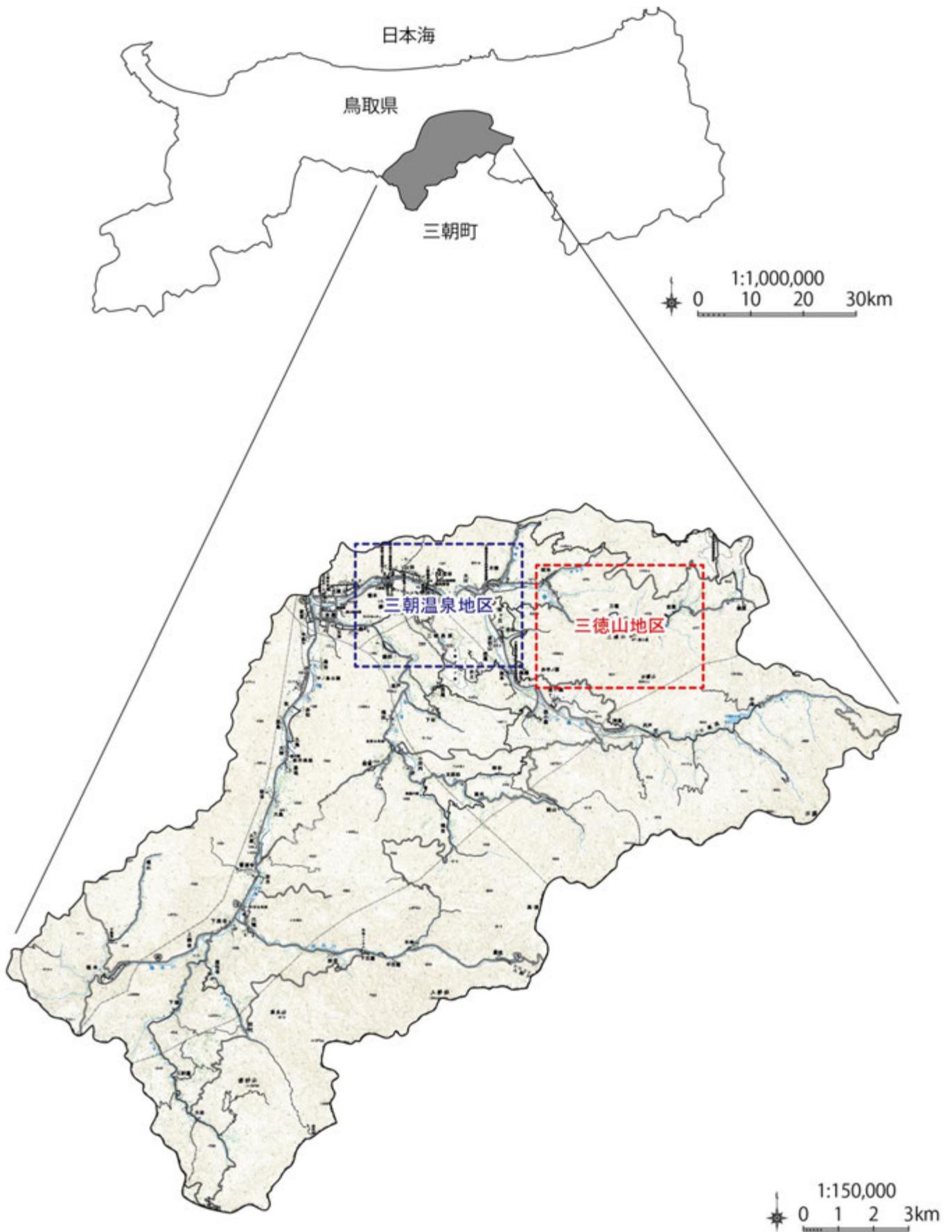
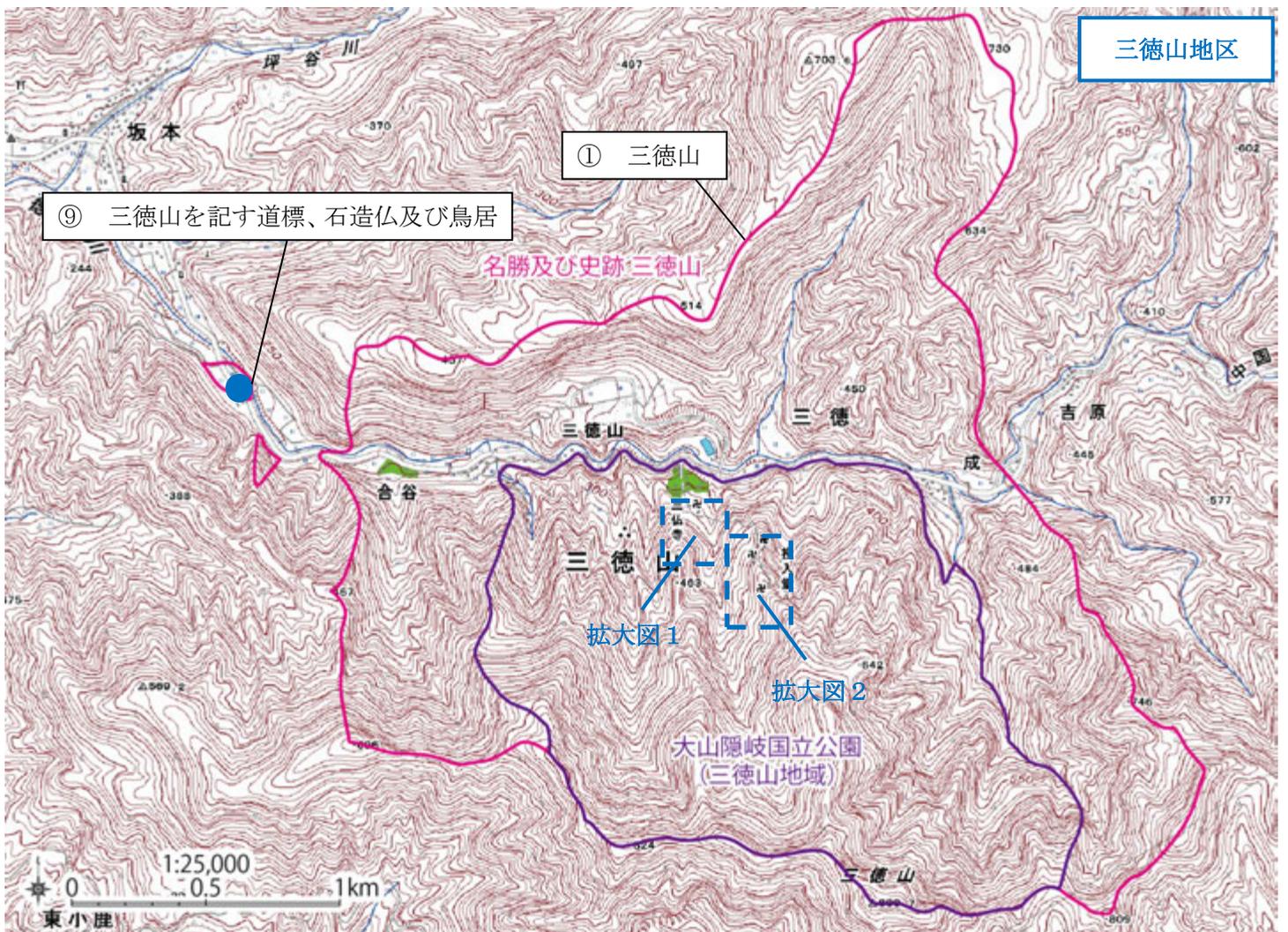
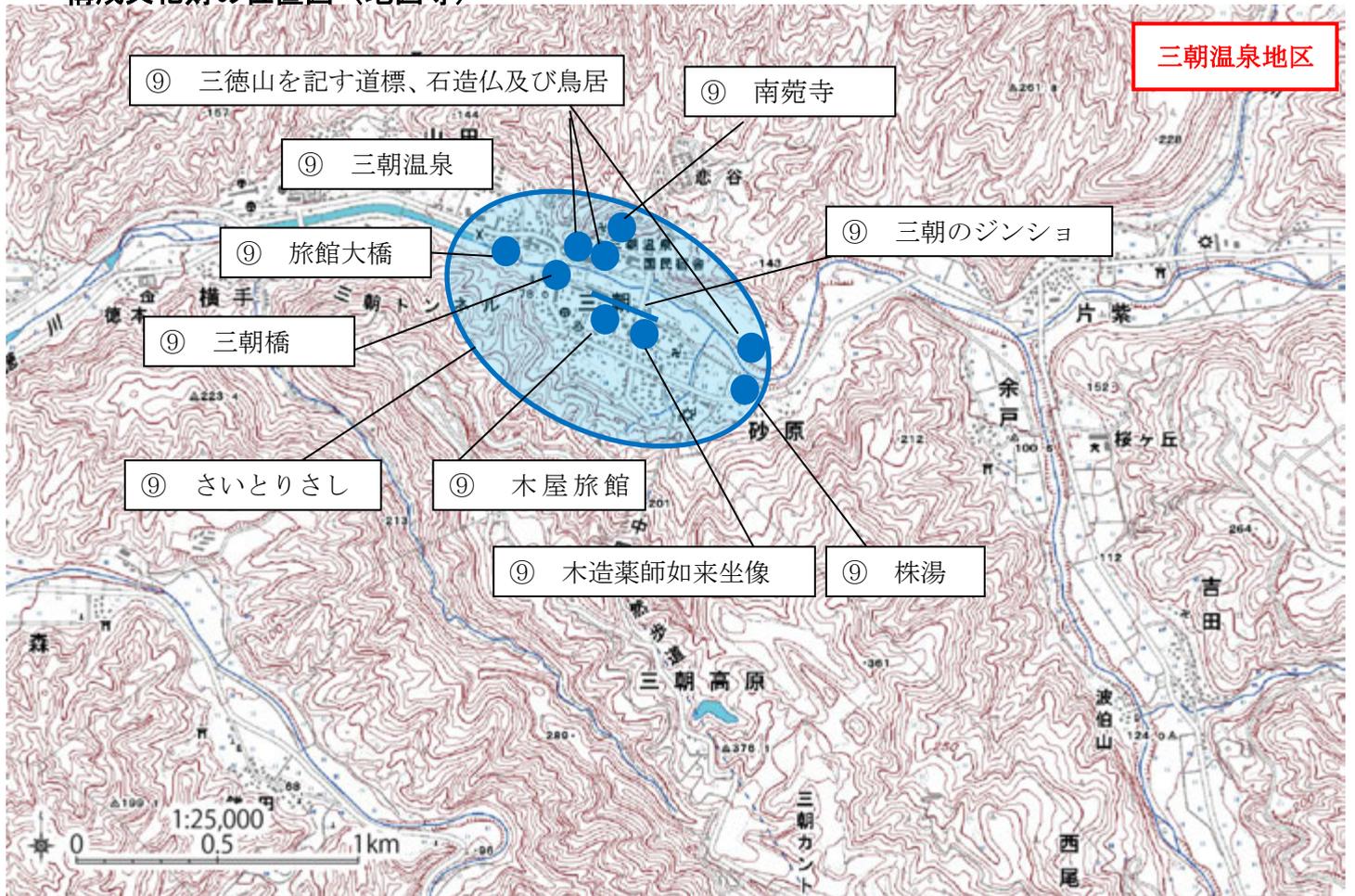


① 申請者	鳥取県 三朝町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E	
③ タイトル				
ろっこんしょうじょう ろっかんちゆ 六根 清浄 と 六感 治癒 の地 ～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～				
④ ストーリーの概要（200字程度）				
<p> ^{みとくさん} 三徳山は、山岳修験の場としての急峻な地形と神仏習合の特異の意匠・構造を持つ建築とが織りなす独特の景観を有しており、その人を寄せ付けぬ^{おごそ} 巖 かさは1000年にわたって畏怖の念を持って守られ続けている。 </p> <p> 参拝の前に心身を清める場所として三徳山参詣の『拠点^{みささおんせん}を担った三朝温泉』は、三徳山参詣の折に白狼により示されたとの伝説が残り、温泉発見から900年を経て、なお、三徳山信仰と深くつながっている。 </p> <p> 今日、三徳山参詣は、断崖絶壁での参拝により「六根^{ろっこん}（目、耳、鼻、舌、身、意）」を清め、湯治により「六感^{ろっかん}（観、聴、香、味、触、心）」を癒すという、ユニークな世界を具現化している。 </p>				
⑤ 担当者連絡先				
担当者氏名				
電 話		FAX		
E-mail				
住 所				

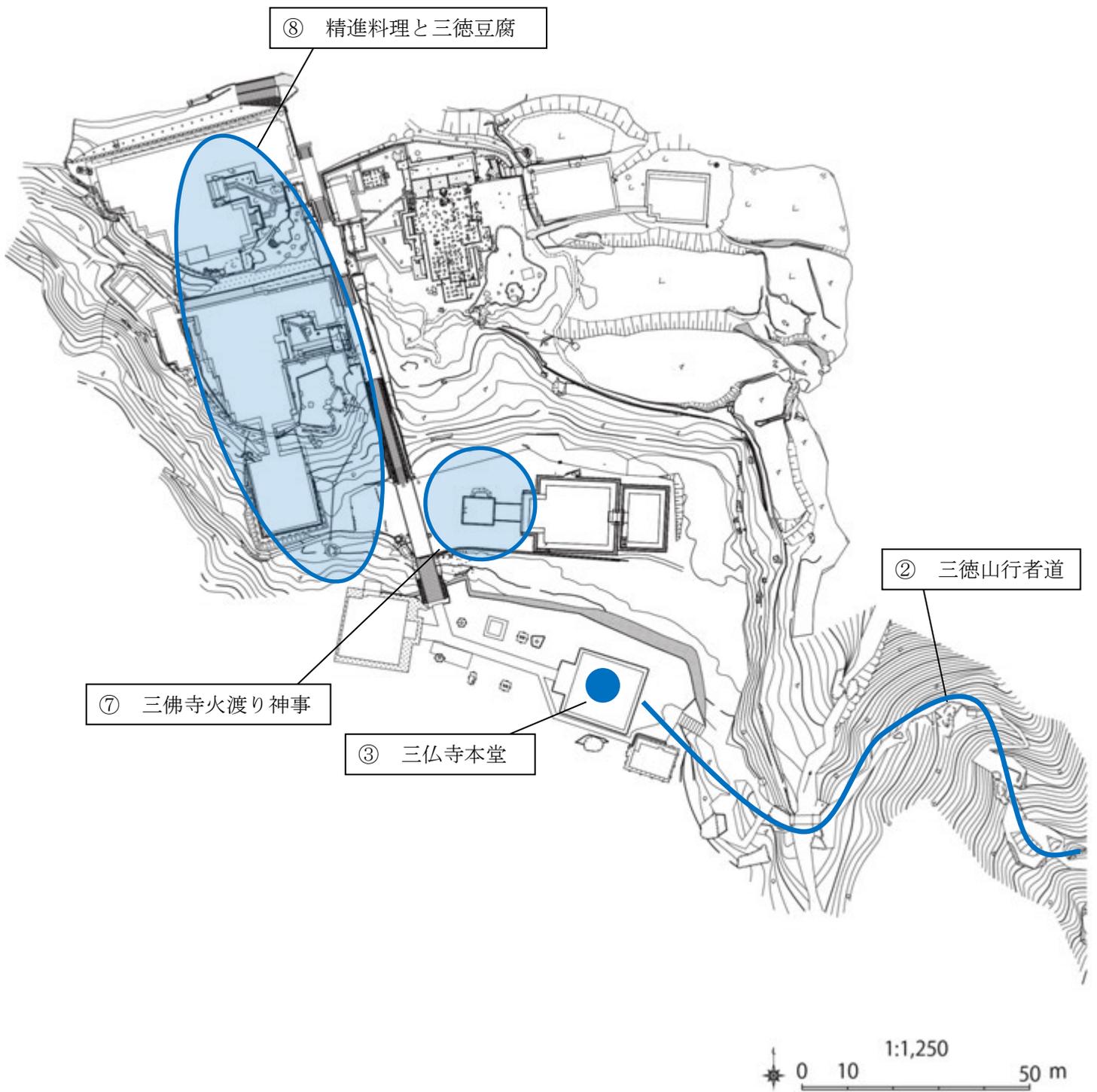
市町村の位置図 (地図等)



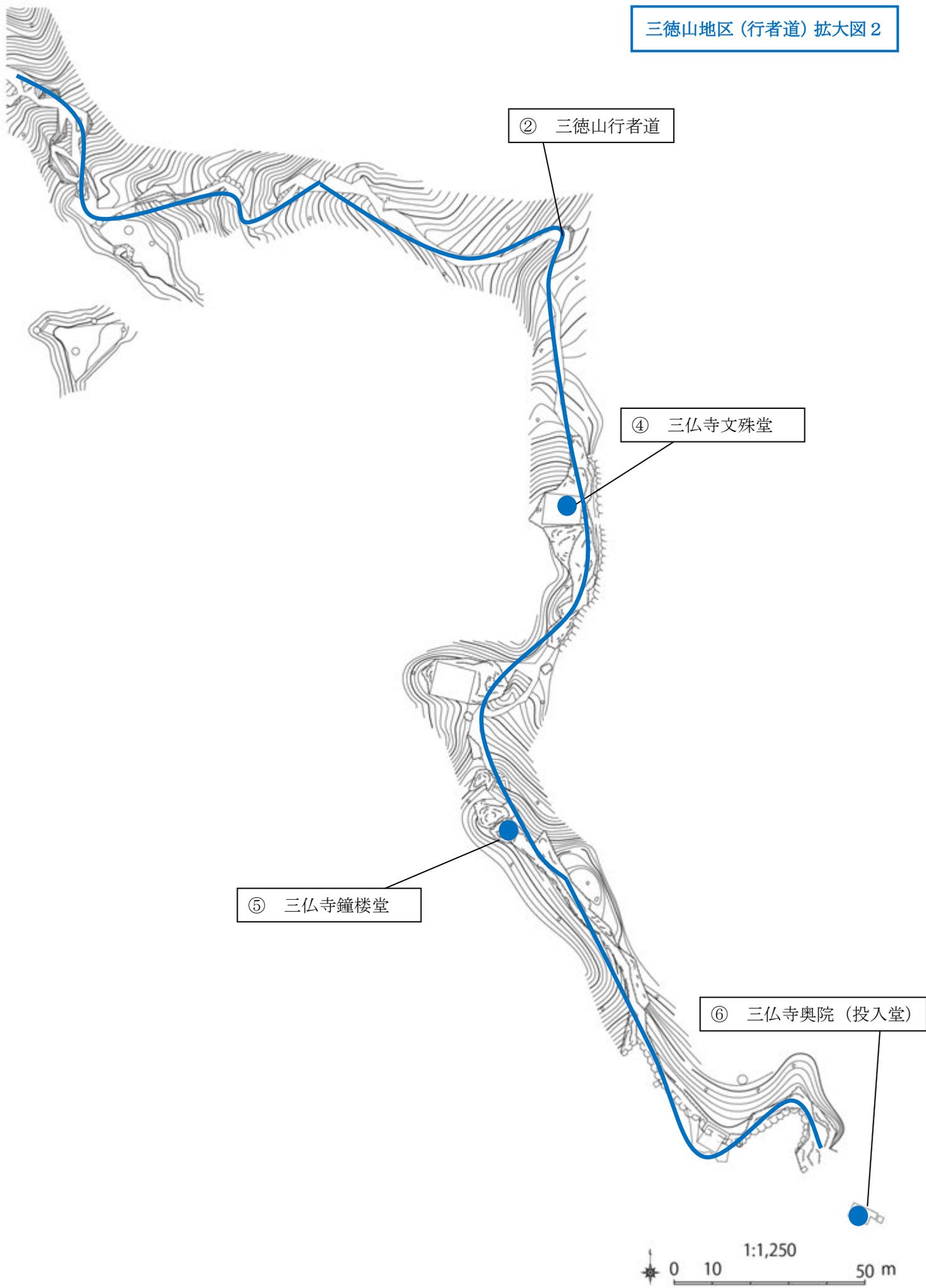
構成文化財の位置図 (地図等)



三徳山地区 (行者道) 拡大図 1



三徳山地区 (行者道) 拡大図 2



ストーリー

神話のふるさと因幡^{いなば}国、出雲国と隣り合う伯耆^{みとくさん}国に修験道の聖地三徳山が誕生する。この誕生は、修験道の開祖^{えんのおづぬ}役小角が「神仏のゆかりのあるところへ落としてください。」と三枚の蓮の花びらを空に投げ上げると、そのうちの一枚が伯耆^{ほうき}国三徳山へ舞い降り、この地に修験道の行場が開かれたという、「蓮の花びら伝説」として現在も語り継がれている。その後、三徳山は慈覚^{じかくだいし}大師が山下に堂宇を建立し、「釈迦如来」「阿弥陀如来」・「大日如来」の三尊を安置した三佛寺によって天台密教の道場として隆盛を極めることとなる。

修験道の聖地三徳山への道は、大きく3つに分かれる。東は因幡から、南は美作^{みまさか}から、西の出雲からの道である。それぞれの道程には温泉があり、三徳山と温泉は密接な関係を窺うことができる。とりわけ、出雲からの道は三朝温泉を経由し三徳山に入山する道で、歴史的にも最もよく使われた参詣道である。

三朝温泉に残る「白狼伝説」によると、源義朝の家来大久保左馬之祐^{さまのすけ}が、主家再興の祈願のため三徳山に参る道中、楠の根元で年老いた白い狼を見つけた。「お参りの道中に殺生はいけない」と見逃してやったところ、妙見菩薩が夢枕に立ち、白狼を助けた礼に、「かの根株の下からは湯が湧き出ている。その湯で人々の病苦を救うように」と源泉のありかを告げたという。こうして「万病を癒やす湯」として、「株湯」が現代に伝わる。

しかしある時、株湯に祀られていた神様を誤って湯の中に落としたため、「一たび湯に入れば、大熱を発し、または気絶する者が後を絶たなくなり、悪霊がいる崇りの湯」と恐れられたこともあるが、その悪霊を三徳山にて鎮め、木像の胸中に納めて薬師如来を三朝温泉の守護仏として祀った。その後は「癒やしの湯」として、湯治に来る人々が後を絶たなくなったという。三徳山との強い結びつきを示す話である。

三徳山では目・耳・鼻・舌・身・意を清める「六根清浄」は、まず、三朝温泉の湯に入り、身を清め、癒し、心を整え、山へ向かう準備を行い、翌朝、三徳山へ入る。その道中、随所に地藏菩薩が祀られ、また、辻堂に観音菩薩が祀られ、お参りしつつ三徳山へと向かうことから始まる。

かつての三徳山は北面を北座と呼び、南面を南座と呼んでいた。北座では寺院、僧坊が山内に配され、寺院では仏像、写経、読経、座禅、精進料理などで、己の欲や迷いを断ち切り、心身を清める六根清浄を深めていた。さらに修験道のそれは、深山にわけ入り、洞窟、岩屋で寝食し修行を行っていた。

今日でも、こうした修験道の一端を「行者道」に垣間見ることができる。行者道は「宿^{しゆく}

いばし
入橋」から始まり、千数百年変わらぬカズラ坂やブナ林の「願掛けの石段」、「馬の背・牛の背」を這いつくばって登り、「文殊堂」、「地藏堂」など多くの行場を経た後に、突如として眼前に断崖絶壁の岩窟に建つ「国宝投入堂」が現る。

この行者道は、かつての行場を経ることで人と自然界との一体感を強く感じ、自然の力を享受する道として今も残る。

一方、三徳山南座は、現在では地元の人も殆ど訪れない場所であるが、石造物群や行者の墓地とみられる場所など、かつて隆盛を極めた修験道の行場が各所に残っており、三徳山全山が修験道の聖地であったことを物語っている。

先人の行者によって形作られた修験道の聖地において、行を重ね、六根清浄を終えて山を下り、三朝温泉の湯を飲み、浸かり、湯煙に身を置き、再び自然の恵み、自然の力を全身に授かることで、六感を癒す。これをいわゆる、六感治癒と言っている。この「六感治癒」を今に伝える話として、ある人が、目が見えるようになるよう願いを込め、来る日も来る日も行者道に石段を積む行を行い、湯に浸かり身を清めたところ、ある朝、朝日とともに三尊仏が出現し、願がかなえられたという、「願掛けの石段」の物語がある。また、三徳山周辺から切り出した大藤カズラで行う「三朝の大綱引きジンショ」や、清流三徳川でのカジカの鳴き声や川湯から立ち登る湯煙など、心を癒やす情景の中で六感治癒を果たすことができる。

このように三徳山で「六根」を清め、三朝温泉で「六感」を癒す一連の作法は「人と自然が融合する日本独自の自然観」を特徴的に示したものであり、心と体を洗うことで、誰もが持つ清らかさが蘇る地として、ありつづけている。



国宝 投入堂



三朝温泉

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	みとくさん 三徳山	国名勝及び 史跡	「六根清浄」のストーリーの核となる空間。 山岳修験の霊場であり、急峻な地形と独特の意匠及び構造を持つ建築とが織りなす独特の景観を有する。	
②	みとくさんぎようじゃどう 三徳山 行者道	国名勝及び 史跡地内	「目・耳・鼻・舌・身・意＝(六根)」の感覚全てを研ぎ澄まし、命を懸けて山中に鎮座する「国宝投入堂」を目指す 「六根清浄」の全てを清める修行の道。	
③	さんぶつじ 三仏寺 本堂	県有形 (建造物)	行者道の起点にあたり、「六根清浄」の「鼻」にあたる。 出発前に備える線香と修験道では、「神木」とされる石楠花の芳香に包まれ、国宝投入堂への参拝が始まる。	
④	三仏寺文殊堂	国重文有形 (建造物)	「六根清浄」の「身」を代表する場所 で、行者道の難所「クサリ坂」にあたる行場。登坂後に文殊堂から望む日本海、大山の雄々しき姿は参拝者の心を徐々に清らかにする。	
⑤	さんぶつ しょうろうどう 三仏寺 鐘楼堂	県有形 (建造物)	「六根清浄」の「耳」を代表する、 行者道中に点在する堂宇の一つ。造立方法は謎だが、投入堂参拝前の儀式として参拝者は鐘を撞き、心を落ち着かせる場所として欠かせない。	
⑥	おくのいん 三仏寺 奥院 (なげいれどう (投入堂))	国宝 (建造物)	「六根清浄」の「目」の核となる建造物。 建築方法は今も謎の断崖絶壁に建つ三徳山の象徴。信仰の象徴である蔵王権現像を配し、 「六根清浄」が満願成就する最終到達地。	
⑦	三徳山火渡り神事	未指定 (民俗)	「六根清浄」の「意」にあたる、 三仏寺の秋季法要。国宝投入堂参拝が叶わぬ者でも、火の上を素足で歩くことで祈りが届くとされている。	
⑧	精進料理と三徳豆腐	未指定 (風習)	「六根清浄」の「舌」を代表するもの。 山内で供される料理を食することで、参拝前に体の中を清らかにし参拝の始まりを予感させる。	

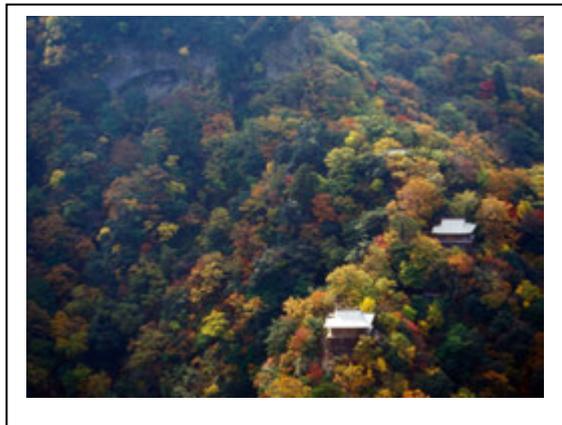
番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
⑨	みきさ 三朝 温泉	未指定	三徳山参詣の折に白狼によって示された以降、 三徳山参詣の拠点地 として参拝者の心身を清め、「観・聴・香・味・触・心＝六感治癒」のストーリーの核となる空間。	
	三徳山参詣道沿いの石造物	未指定	三徳山と温泉のストーリーを結合させるもの 。三徳山への参詣道沿いにかつて道標・石仏・鳥居等住民が設置。地元の三徳山への信仰を裏付ける存在。	
	株湯	町旧跡	「六感治癒」の「味」「香」を代表する三朝温泉発祥の地 。株湯と同じく温泉街にある「河原風呂」は、三朝温泉の象徴であり、温泉から発する「湯の香」は三朝温泉から始まる三徳山参詣を予感させる。また「飲泉」は、体の中を清らかにすると言われ、医療効果としても利用されている。	
	三朝のジンショ	国重要無形 (民俗)	「六感治癒」の「観」にあたり 、三朝温泉を代表とする民俗行事で、霊場である三徳山周辺から切り出した藤カズラを使い、東西に分かれて引き合う勇壮な綱引き。藤カズラを用いる形態は特異で、人と自然が融合した独特なもの。	
	さいとりさし	県無形 (民俗)	「六感治癒」の「聴」「触」にあたる 、三朝温泉に伝わる座敷芸。三徳山を舞台にした狂言風の踊りで三徳山との関係が民衆に浸透していたことを示す。	
	きや 木屋 旅館	国登録有形 (建造物)	「六感治癒」の「触」「心」を代表する 木造3階建ての旅館。大正期の温泉施設の原型を有しており、入浴以外の温泉利用として「オンドル」施設が残る、昭和の温泉文化を代表する建物。	
	木造薬師如来坐像	未指定	三徳山と温泉のストーリーを結合させるもの 。三朝温泉街「薬師堂」の安置仏。「湯薬師さん」と呼ばれ、 温泉街(参詣の起点)において三徳山を象徴する仏像 。かつて三徳山から移された歴史をもつ。	

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の所在地(※4)
⑨	みささばし 三朝橋	国登録有形 (建造物)	「六感治癒」の「聴」「心」にあたる。 木橋を意識した昭和初期のコンクリート橋で、「河原風呂」とともに三朝温泉の象徴である。三朝川のせせらぎとカジカガエルの鳴き声は、参拝者の心を癒す。	
	りよかんおおほし 旅館 大橋	国登録有形 (建造物)	「六感治癒」の「観」「心」を代表する 木造3階建の旅館。眺望が楽しめるよう客室すべてが、三朝川沿いに配され、部屋ごとに床の間、天井、欄間等の意匠が異なる数寄屋風の造りで、昭和初期の建築技術の高さをみせる大規模な木造和風旅館。	
	なんえんじ 南苑寺	国登録有形 (建造物)	「六感治癒」の「観」「心」にあたる 三朝温泉の寺院。三朝温泉街の高台に配された本堂での座禅は、心を徐々に清らかにするとともに、竜宮城を思わせるユニークな伽藍景観を形成する山門や、見る角度によりその表情を変える鬼瓦は、参拝者の目を楽しませる。	

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)
(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。
(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

① 三徳山



④ 三仏寺文殊堂



② 三徳山行者道 (クサリ坂)



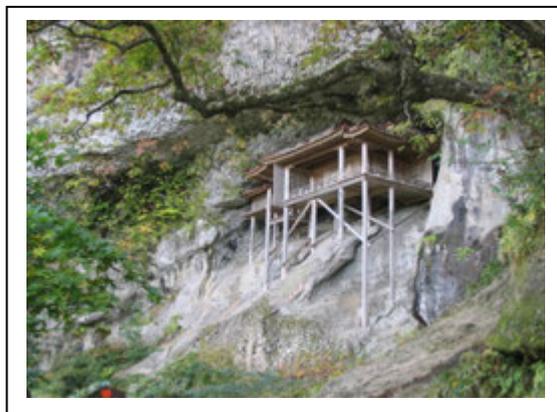
⑤ 三仏寺鐘楼堂



③ 三仏寺本堂



⑥ 三仏寺奥院 (投入堂)



構成文化財の写真一覧

⑦ 三徳山火渡り神事



⑨ 三徳山参詣道沿いの道標 (石造物)



⑧ 精進料理と三徳豆腐



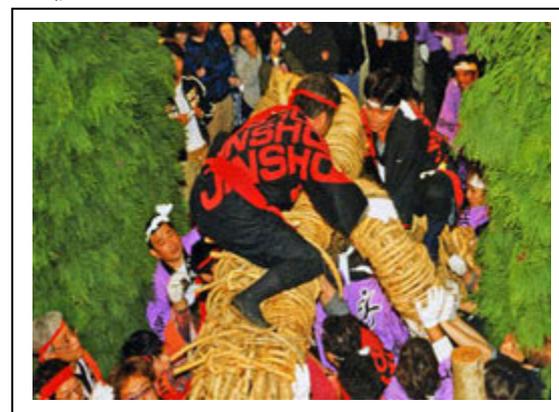
⑨ 株湯



⑨ 三朝温泉



⑨ 三朝のジンショ



構成文化財の写真一覧

⑨ さいとりさし



⑨ 三朝橋



⑨ 木屋旅館



⑨ 旅館大橋



⑨ 木造薬師如来坐像



⑨ 南苑寺



日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像 (ビジョン)

三朝町は、第11次総合計画において将来像として「笑顔と元気があふれ 輝く町」を掲げ、「まち」と「ひと」個性が交響する町づくりに取り組んでいる。今後、過疎地域が持続的に発展していくためには、町の自然、歴史、文化、産業、人材などを磨き上げ、国内外からの交流人口の増大と関係人口による関わりも活かした新しい文化の創造（高付加価値化）による地域経済の活性化が不可欠である。

日本遺産のストーリーを活かした三徳山三朝温泉の新たな魅力を掘り起こすことにより、国内はもとより世界に通じる小さくてもキラリと光る「日本遺産の町」を目指す。今後3年間で具体的に実現を目指す将来像は以下のとおり。

1 国内外から訪れる旅行者で賑わう町 ～推進体制と受入環境整備のビジョン～

本町の日本遺産は、日本を代表する文化である「温泉」がもたらす心身のリラクゼーション（癒し）と「祈り」がもたらす心の浄化（山岳修験道）を組み合わせた地域の歴史と文化財、周辺の観光や産業などを面的に束ねる重要な役割を果たしている。

旅行者のニーズに寄り添い、満足度を高めるための受入環境の整備としての景観づくり（国宝の眺望確保等を含む）や「六根清浄と六感治癒の地」のストーリーと構成文化財の魅力を案内人がネイティブ目線で紹介するなど旅行者の受入サービスの充実、温泉が取り持つ縁で姉妹都市交流30周年を迎えた南フランスの温泉保養地ラマルー・レ・バン町や台湾台中市石岡区など海外との交流チャンネルを活かしたマーケティング、世界有数のラジウム含有量を誇るラドン泉の健康効果の解明に向けた研究によるエビデンス整備など、多方面からのアプローチにより日本遺産としてのブランド価値を一層向上させていく。

また、今後の方向性としてこれらを活かしたヘルスツーリズムへの展開を目指す。日本政府観光局（JNTO）による海外への発信やデジタルマーケティングの手法をとり入れ、旅行者が他の人にSNSでお薦めしたくなるほど魅力的な町として「世界水準の温泉リゾート地（※（i））」を目指して磨き上げていく。

※（i）「再び」を意味する“re”と、フランス語で「出かける」を意味する“sort”を合わせた単語。リゾートには「何度も訪れたい場所」という意味がある。

2 地域資源の活用により経済が潤う町 ～高付加価値化への取組ビジョン～

「六根清浄と六感治癒の地」が旅行者で賑わうことにより、三徳山や三朝温泉で営業する旅館や飲食店、その他地域内外の商工業者がビジネスを展開し、その恩恵を受けること

ができる。また、さらなる経済発展に向けた新しい商品・ビジネスプランの企画を進めるため、三朝町日本遺産活用推進協議会（以下、「日本遺産活用推進協議会」という。）において日本遺産のストーリーを深める取り組みを積極的に実施していく。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、これまで以上に健康へのニーズが高まることを見込まれることから、心身の治癒につながる「現代湯治」をはじめ、「精進料理」、「修験道体験」や温泉の効能を活かした「熱気浴」「鉱泥湿布」「美容商品」、さらにはバイオリン美術館や陶芸工房（白狼焼）でのオーダーメイドの文化体験など、個々の目的で選択できる特別感のある体験メニューを提供し、顧客満足度を上げながら付加価値を高め、顧客単価の向上につなげる。

また、農業者との連携による地元食材を活用した「日本一の精進料理」やここでしか味わうことのできない特別な食事メニューのさらなる開発、食の多様化への対応など、日本遺産を地域の共通言語として異業種間のコラボレーションを促進することで、多方面への経済的波及効果を創出する。

3 住民の活躍が町の持続化を後押しする交流と活気のある町 ～SDGsの理念に基づく未来志向の活動ビジョン～

日本遺産の取組を契機として、住民はSDGsの理念を共有し、町の歴史や文化など、貴重で魅力的な地域資源を有する町への誇りと愛着心を持ち、来町される方が笑顔で元気になれる町づくりに向けて精力的に取り組んでいる。

インバウンドで訪れた多くの外国人旅行者や三朝を愛するファンの訪問を歓迎し、“おもてなし”の心で交流を深めるとともに町の魅力をアピールし、未来に向け、世界に開かれた活気ある町づくりにより交流人口を増大させ、将来的にも継続可能な文化・観光・産業における好循環を達成していく。

(2) 地域活性化のための取組の概要

過去に上手くいかなかった原因を分析し、新しい計画のなかでそれらを意識しながら進めていく。（別紙：日本遺産事業の経過と進捗管理表 参照）

<基本戦略>

1 組織整備

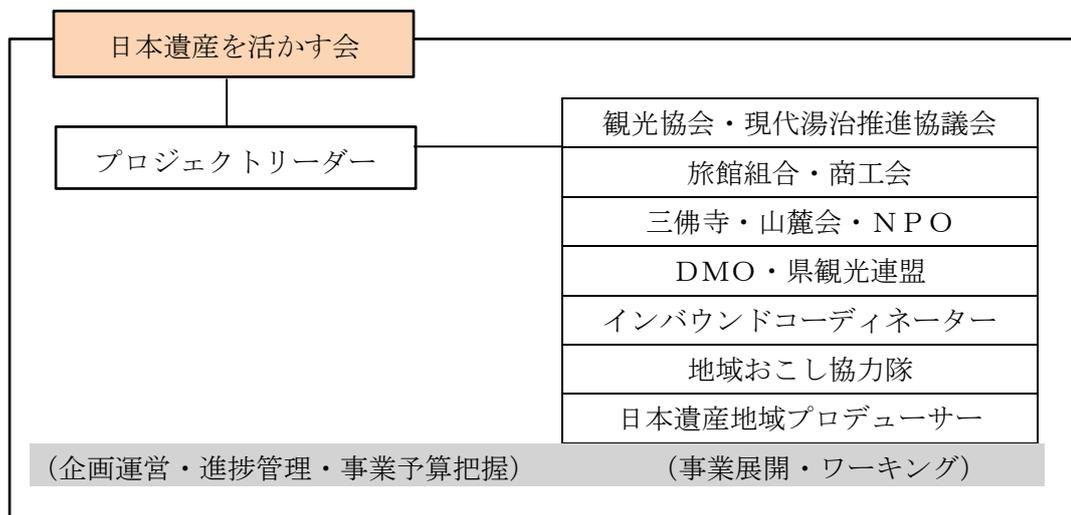
① 事業推進のための体制強化

新たに設置する日本遺産活用推進協議会には、従来の「日本遺産三徳山三朝温泉を守る会（以下、「日本遺産を守る会」という。）」に、日本遺産のストーリーを活かした観光振興に取り組むために新たに立ち上げた「日本遺産三徳山三朝温泉を活かす会（以下、「日本遺産を活かす会」という。）」を加え、役割を分担しながらこれま

で以上に専門性の高い協議を行い、誘客促進や保全活動、普及啓発事業などの成果につなげる。新しい体制では運営が形骸化することのないよう機動性のある意思決定のプロセスやPDCAサイクルを活用することにより、着実な事業推進につなげる。

日本遺産を守る会では、組織体制を検証し、構成文化財や景観の保全活動、日本遺産の普及啓発など、町民や会員への働きかけとそれらによる実践活動の活性化につながる仕組みを再構築する。

日本遺産を活かす会では、構成員として三徳山三朝温泉関係者に加えて、国（観光庁）登録の（一社）鳥取中部観光推進機構（※（ii）以下、「地域連携DMO」という。）や（一社）山陰インバウンド機構（※（iii）以下、「広域連携DMO」という。）、（公社）鳥取県観光連盟（以下、「県観光連盟」という。）、（特非）NPOみささ温泉（※（iv）以下、「NPO」という。）などの参画を得て、誘客の充実に向け、多角的視点に基づく事業の企画運営や進捗管理、事業予算の把握等を行い、構成団体による事業を展開していく。



※（ii）鳥取県中部地域（倉吉市、湯梨浜町、北栄町、琴浦町、三朝町）及び岡山県蒜山地域の観光振興を目的に設立された日本版DMO。平成28年1月に法人登録され、設立時から三徳山や三朝温泉など日本遺産の推進について関わりを持つ。

※（iii）鳥取・島根2県からなる広域連携DMO。米子空港などへの直行便の利用促進のほか、首都圏、関西、せとうちなどゲートウェイの多角化による訪日外国人の誘客で新たな経済圏の創出に取り組む。

※（iv）三朝温泉において、空き店舗の有効利用並びに広範囲で一体感のある三朝温泉街の形成に関する事業を行い、三朝温泉の活性化に寄与することを目的に平成18年1月に設立。現在、公衆浴場「三朝温泉たまわりの湯」と「天然ラドン熱気

浴泉すーは一温泉」を運営する。

日本遺産を活用し持続可能な三徳山三朝温泉の「観光振興・まちづくり」を主体的に進めていくためには、推進事業に取り組む体制の法人化など事業実施の基盤を固めていく必要がある。第一段階として事業計画や予算について日本遺産を活かす会において全体を共有し、「自立自走」につながる体制について検討する。

また、役場内部署の連携強化に向けて、地域振興監をリーダーとする「三朝町日本遺産活用推進チーム（以下、「役場推進チーム」という。）」を設置する。役場推進チームは、観光交流課（観光振興）、企画課（情報発信・住民活動）、社会教育課（文化財）で構成し、新しい推進体制の「実施本部」と位置づけ、民間組織と役割を明確にしたなかで官民一体となり、連携しながら地域活性化計画の目標達成を目指す。

【取組の概要】

- ・ 日本遺産活用推進協議会の設置
　　<「日本遺産を守る会」「日本遺産を活かす会」で構成>
- ・ 日本遺産を守る会の再構築
　　<住民団体や会員による活動の充実>
- ・ 日本遺産を活かす会の設置
　　<地域連携DMO、広域連携DMO、県観光連盟、NPOの参画>
- ・ 役場推進チームの設置
　　<観光団体等との情報共有（ツールを活用）による事業推進>
- ・ 活動におけるPDCAサイクルの活用
　　4月～3月　事業実施
　　7月　　　前年度事業の点検・評価
　　8月　　　改善案の協議
　　11月　　　次年度事業・予算計画
- ・ 日本遺産事業の実施体制における「自立自走」への取組

② DMOとの連携強化

過去6年間の日本遺産事業における推進体制の反省を踏まえ、従来の三徳山と三朝温泉関係者のみの取組ではなく、伴走者として2つのDMOとの連携を強化し、協働活動や積極的な業務委託を通じてこれからの観光振興のトレンドである広域連携やインバウンドについての提案を受け、新体制による能動的な事業展開につなげる。

2 戦略立案

日本遺産事業を進める上で3つの戦略を掲げる。

戦略1 ストーリーを活かす（現代湯治 ※（v） 開湯 850 年 開山 1300 年）

世界屈指のラドン泉である三朝温泉は 850 年の長きにわたり人々の体を癒し、また、開山 1300 年の三徳山は山岳信仰の持つ「温泉が湧き出ることにも神仏の成すところ」との考えから、「三徳山での修行を前に三朝温泉に入湯し、心と体を清める」、さらには「修行での疲れを三朝温泉で癒し日常にもどる」といった一連のストーリーが生まれた。

この体験型のコンセプトやストーリーは、三朝温泉が取組を進めている「現代湯治」の考え方に合致しており、日本遺産を重ね合わせることで他の温泉地との差別化を図り、長期滞在やリピーターの獲得など本町独自の温泉滞在プランとして確立する。また、「六根清浄」と「六感治癒」から創造されるサブストーリーの充実を図り、そのメニュー化を通じて観光資源に厚みを加える。

※（v）三朝温泉は「ラドン含弱放射能泉」であり、免疫力や自然治癒力の向上に効果があるとされ、病院と地域、旅館等が連携した滞在プランとしての「現代湯治」は、ヘルスツーリズムの考え方を活かした取組といえる。

戦略2 地域資源を磨く（長期的戦略としてのブランディングと情報発信）

① 文化財等を活用した観光誘客

国宝投入堂をはじめ本町には多くの文化財が点在し、日本遺産の魅力的な構成要素となっている。他にはない国宝投入堂（完全非対称＝アシンメトリー）などの建物群やその造立（ぞうりゅう）が三徳山の開山の歴史にも結びつく仏像群、火渡り神事、さらには三朝温泉で行われる大綱引き（ジンショ）は、国指定の重要無形民俗文化財であるが、これらを有効活用し非日常的な体験プランとして組み立て、ストーリーにのせて観光客の誘致につなげる。

② 調査・研究への取組

日本遺産のブランド力を高めるためには、ストーリーを構成する三徳山と三朝温泉に関する調査・研究を深化させ、新たな発見による魅力アップを積み重ねていく必要がある。三徳山の南側エリア（神倉（かんのくら））では、引き続き修験の場としての歴史的価値に関する調査を進め、六根清浄における「祈りの空間」としての存在感を高めていく。また三朝温泉では、旧岡山大学病院三朝医療センターにおいて世界有数のラジウム含有量を誇るラドン泉を使った治療が行われていた。現在では、岡山大学が国立研究開発法人日本原子力開発機構人形峠環境技術センター（岡山県鏡

野町)などの協力を得ながら、ラドン泉の健康への効果に対するエビデンス(健康・医学的根拠)を解明すべく研究が進められている。

これらの調査・研究における発見は、日本遺産のストーリーの普遍的価値を高めるものであり、情報発信や案内人を通じてその魅力を伝えることにより、日本遺産のブランド力のさらなる向上を目指す。

【取組の概要】

- ・ 修験道に係る三徳山学術調査
- ・ 名勝及び史跡三徳山・名勝小鹿溪保存活用計画における位置づけ
- ・ ラドン泉の吸入による健康・予防治療効果研究
- ・ 岡山大学・三朝町・鳥取県 温泉等地域資源活用健康増進プランの研究
- ・ 調査研究成果の情報発信

戦略3 顧客満足度(マーケティング)調査に基づく事業展開

インバウンドを含めた旅行者に対し、定期的に旅行のニーズや満足度、移動等に関する調査を行い検証していく。また、本町での滞在や宿泊に関する意見・要望などについてインターネットなどを活用した調査・分析を行い、サービス改善や品質向上を図る。さらには日本遺産に対する顧客のニーズに対し的確に対応するため、これらについて日本遺産を活かす会でのマネジメントを行い、事業プランの充実に向けて取り組む。

【取組の概要】

- ・ 旅行者向け認知度・満足度調査<インターネットを活用>
- ・ モニターツアーや旅行会社向けツアーの実施
- ・ 鳥取県観光誘客ディレクター(全日空からの出向者)の活用

3 人材育成

日本遺産事業に取り組む上で「人材」は最も大切な財産であり、人材の育成はこの考え方のもと“人財”育成として取り組む。

① 日本遺産地域プロデューサーの設置

地域活性化計画に基づく日本遺産事業の推進に向け、日本遺産地域プロデューサー

一（以下、「地域プロデューサー」という。）を選任する。日本遺産事業の企画・立案と事業調整の中心的役割を担う。日本遺産のストーリーと活かすべき地域資源に精通していることに加え、インバウンドを含む顧客の新規ターゲット層の獲得に向けた戦略など事業マネジメントや情報発信について経験豊富な人材を充てる。

【取組の概要】

- ・ 地域プロデューサーの選任

※令和3年度は役場推進チームのリーダー（地域振興監）が代行し令和4年度の正式配置に向け人材の掘り起こし等を進める。

- ・ 地域プロデューサーを育成するための研修プログラムへの参加
- ・ 日本遺産プロデューサー派遣事業を活用した有識者による指導
- ・ 役場推進チームによるバックアップ

② 地域民間プレーヤーの育成

旅行者が日本遺産を理解し、三徳山三朝温泉の旅を満喫するためには、旅のシーンにおいて様々な分野で観光客をもてなす地域プレーヤーの存在が欠かせない。日本遺産のストーリーや構成文化財等の魅力について旅行者に説明する案内人（ガイド・アドバイザー）、構成文化財の保全と継続や普及啓発活動を支えるボランティアの皆さん、商品開発に取り組む民間企業のスタッフもプレーヤーとして日本遺産を支えている。さらには世界中から訪れる旅行者を迎える旅館のスタッフも重要なプレーヤーであり、世界水準の観光地を目指すなかでそのレベルアップは欠かせない取組である。

近年、三朝温泉では夏休みに訪れる宿泊客をもてなそうと旅館のスタッフや地域住民により、期間中、毎日花火を打ち上げる催しが行われている。このような活動を通してプレーヤーのネットワークを構築し、“地域民間プレーヤー”の活躍の輪を広げていく。

案内人については、三徳山の「三徳山ガイド」や三朝温泉の「まちあるきガイド」、温泉入浴アドバイザー「ラジムリエ（ラジウム＋ソムリエ）」が設置されているが、いずれも十分な人数の確保ができておらず、ガイド体制の強化と併せて人材を確保し、研修やWEBを活用しながらガイドスキルや接客マナーの向上につなげ、顧客の高い満足度につながるサービスの提供を目指す。

保全活動や普及啓発活動を支える取組は、日本遺産を守る会の会員が主体となっているが、青年層や女性についても積極的な参加を呼び掛け、日本遺産を守る会の体制維持・強化を図っていく。また、全町で取り組む「町内一斉清掃活動」や「環境整備ボランティア」について企業の協賛や学生組織に協力をお願いし、プレーヤーの発掘と育成につなげる。

商品開発への取組については、まずは現在行われているものを共有し、各DMOと三朝町商工会（以下、「商工会」という。）からの情報提供や支援を得ながら、日本遺産を活かす会のマネージメントを通じてプレイヤーを育成し、商品の自立した提供を目指す。また、新たな発想に基づく取組の提案についても日本遺産を活かす会において積極的にとり上げ、プレイヤーの提案を具体化する手法について、アドバイザー等応援団とのマッチングを行う。

【取組の概要】

ア ガイド・アドバイザー

- ・日本遺産ガイド事業の実施
- ・温泉入浴アドバイザー（ラジムリエ）の育成（現代湯治推進協議会（※（vi））
- ・接客マナーなど「おもてなし」の習得
- ・鳥取県観光誘客ディレクター（全日空からの出向者）を活用した学習会
- ・持続可能な体制の構築

※（vi）正式名称は「三朝温泉現代湯治推進協議会」。三朝温泉の療養・保養効果に着目し「免疫力を向上させる旅」を“現代湯治”として商品化している。ラジムリエのアドバイスを受けながら温泉に浸かり、温泉街や三徳山でストレスフリーな癒しの時を過ごすことを提案する。協議会には21の宿泊施設と中部医師会立三朝温泉病院なども参加をしており、ラジムリエのスキルアップや健康増進メニュー、体験プランの充実を通じて、ヘルスツーリズムを活かした健康志向の温泉地として誘客の促進を目指す。

イ ボランティア活動

- ・町内一斉清掃活動
- ・日本遺産環境整備ボランティア

ウ 商品開発

- ・現在の取組の把握と自立自走に向けた育成
＜寺カフェ、濃縮三朝温泉水など＞
- ・各種インストラクター、伝統技術習得者（工芸品等）、食品加工技術者等専門家の発掘と活用による新しい商品づくり

③ 文化財を継承する人材の育成

「三朝のジンショ」など日本遺産の構成文化財は、その保存・継承に向けた体制づくりと担い手の確保が課題である。日本遺産を守る会を中心に人材の確保と育成に取り組み、将来にわたり持続可能な実施体制を構築する。

【担い手の確保が必要な文化財】

重要無形民俗文化財「三朝のジンショ」（三朝区陣所保存会）

鳥取県指定無形民俗文化財「さいとりさし」（町さいとりさし踊り保存会）

三朝町指定無形民俗文化財「三徳山御幸行列」（三徳山御幸行列保存会）

【取組の概要】

- ・「さいとりさし少年団」の設立（町さいとりさし踊り保存会）
- ・協力企業・住民団体の掘り起こし
- ・鳥取大学 学生団体（田舎応援戦隊 三徳レンジャー : 三朝温泉観光大使）、岡山大学 留学生交流事業（惑星物質研究所ほか）、鳥取短期大学 学生団体による活動

<ストーリーを伝える仕組みづくり>

日本遺産のストーリーを伝える上で必要となる環境整備に取り組む。

4 環境整備

① ガイドコンテンツの充実と体制の強化

日本遺産の魅力を伝えるために案内人が行うガイドの内容は、聞き手にとって分かりやすく充実しており、「2 戦略立案」で掲げたブランディングの成果が盛り込まれ、歴史的発見や科学的根拠に基づく興味深いものでなくてはならない。この点を踏まえたガイドコンテンツを作成し活用していく。

また、案内人は、日本遺産について幅広い知識を有し、ストーリーを活かしつつ、三徳山から三朝温泉へ又は三朝温泉から三徳山への人の流れを作る役割を担い、幅広い視点でまちや日本遺産の魅力を紹介し、新たな賑わいづくりにつなげる。

【取組の概要】

- ・日本遺産ガイドマニュアル（コンテンツ集）の作成
- ・デジタルコンテンツを活用したガイドの実施
- ・山陰地域限定特例通訳案内士の活用

② 新たな地域ブランディングにつながる商品開発

地域資源を磨く中で、他の日本遺産や地域資源にない強み（効果、イメージ、高

級感、信頼感など)を明確にした商品開発にチャレンジし、ブランド戦略を練るとともに三朝ブランドの浸透と拡大を図る。

【取組の概要】

- ・ 三朝温泉源泉 100%化粧水「三朝みすと」
(商品化済：三朝温泉旅館協同組合（以下、「旅館組合」という。))
- ・ 濃縮三朝温泉水の研究・開発
- ・ 温泉のホルミシス効果による美容展開<アンチエイジング>

③ ガイダンス施設等の整備と見直し

三徳山においては、地形的条件や天候、催しの開催時期などの制約からその魅力をいつでもだれでも体験できる状況にはない。行者道を登る投入堂への参拝は、高齢者をはじめ多くの訪問者にとってハードルが高いことから、映像コンテンツや通信技術等を活用し、訪れる多くの旅行者が日本遺産の魅力をいつでも体験することができる施設の整備に取り組む。

また、三徳山のガイダンス施設と位置付けられている「三徳山休憩舎」や「正善院」、「宝物殿」の展示内容等を見直すとともに、三徳山における施設巡りの導線の再設定、案内板の位置や内容の点検を行い、旅行者にとって分かりやすい内容に改善する。

三朝温泉については、これまで日本遺産の情報発信機能は観光案内所「三朝温泉ほっとプラ座」が担ってきたが、新たに総合的なガイダンス施設として「日本遺産ビジターセンター」を近接して開設する。両施設を連携させて活用・運営することにより、観光導線として三徳山と三朝温泉を有機的に結びつけ、日本遺産のストーリーについてインバウンドを含む旅行者へアピールし、三朝温泉から三徳山への誘客につなげることにより、三朝温泉における旅行者の満足度、さらには新たな経済効果の発生につなげる。

【取組の概要】

- ・ VR（バーチャルリアリティ）の導入による疑似体験の提供
- ・ 三徳山休憩舎や正善院等における情報内容の充実
- ・ 三徳山遥拝所の再整備
- ・ 旅行者の散策における導線と案内板の点検と整備
- ・ 日本遺産ビジターセンターの開設

④ 構成文化財等の保存・修繕

国宝投入堂をはじめとする建造物群は、山腹の厳しい自然環境下にあるものが多

く、適切な保存・修繕を行う必要がある。所有者である三佛寺とも協議し、日本遺産を守る会の活動とも連携しながら、安定した保存環境の構築と定期的なメンテナンス活動を実施する。また「日本一危ない国宝鑑賞」は旅行者の冒険心をそそる魅力的なキャッチフレーズであるが、安全安心な体験こそが第一であり、三徳山行者道における安全対策や事故発生時の対応について万全を期す。

【取組の概要】

- ・ 三徳山内建造物群の保存、維持・修繕
- ・ 収蔵庫等の環境整備
- ・ 三徳山行者道の維持・修繕<参拝者による山護（やまもり）運動への参加>
- ・ 三徳山三朝温泉における防災体制の充実
- ・ 三徳山行者道における「危険」標示、「注意喚起」看板等の点検

<事業化戦略>

(1) の将来像を実現するため、「基本戦略」と「ストーリーを伝える仕組みづくり」を踏まえて、具体的な事業を展開する。

5 観光等事業化

① ストーリーを体験するプランの提供（体験プログラムの充実）

「六根清浄と六感治癒の地」を体験できる事業を充実させ、旅行者に対し非日常的な空間での体験を通じて「癒しと健康」「自然」「新たな知識の習得」「冒険」「美容」「食文化」など旅の醍醐味を感じていただける仕掛け作りに取り組む。また、ストーリーとの結びつきによる新商品の開発や既存の商品の磨き上げを促し、新規の顧客を取り込み地域経済の活性化につなげる。

既に一部の旅館や個人事業者と三徳山がタイアップした体験メニュー「森林セラピー」や「滝行体験」、地元で採れた山菜などを使った精進料理、三徳山における「寺カフェ」のスイーツ、ラドン泉を活用した「三朝みすと」などが商品化されており、この取組の方向を共有し、拡大・横展開に向けて日本遺産を活かす会のプロジェクトリーダーがリーダーシップを発揮し取り組んでいく。

【取組の概要】

ア “体験” にこだわった新しい旅行商品

- ・ 名湯と修験の道を旅するプラン

<日本遺産のストーリーを体験する連泊プラン>

- ・三朝のジンショ、御幸行列の観光体験ツアー
- ・三徳山修験体験ツアー
- ・インバウンド誘客促進事業（オンラインインバウンドツアー）
 <外国人向けに「露天風呂、浴衣、下駄、和食、座禅、写経などを紹介」>
- ・外国人向け三朝温泉現代湯治ツアー

イ 新商品開発事業

- ・温泉の効能や三徳山の特性を活かした商品<健康・美容商品、護摩木>
- ・特産品を活かした精進料理の磨き上げ
 <三朝神倉（かんのくら）大豆、特A米、トチの実、山菜など>
- ・ファスティング（断食）、ヨガ等を活用した商品づくり
- ・伝統工芸を活用した商品づくり
- ・ヴィーガンやベジタリアン用メニューの開発と事業者間での利用促進
- ・旅館や宿坊を活用したワーケーションプランの提案
- ・ロゴマークの使用による日本遺産のPR

② 海外観光客の誘致と地域振興

コロナ禍の影響を受け、海外航空路線は運休を余儀なくされているが、コロナ前に鳥取県は「2019年に外国人が訪れるべき観光地ランキング」（ガイジンポット）で1位に選ばれ、その中では三徳山が紹介されるなど、本町の日本遺産は外国人に向けたポテンシャルの高さが感じられる。今後、航空路線の再開を見越した取組として、定期便となった香港や安定した集客が見込まれる台湾、新規路線として就航した中国（上海）便などを活用し、県やDMOとの連携を通じて日本遺産への誘客に取り組む。FIT（海外個人旅行者）に対し、個々のニーズに対応する「着地型観光商品」に日本遺産の体験ツアー等を提案し、日本遺産の活用と地域の取組を通じて旅行者をもてなす。

インバウンドのV字回復は、残念ながら新型コロナウイルス感染症の状況からここ1～2年は見通せないと推測される。国内在住外国人へのPRや2025年に開催が予定されている大阪万博を視野に入れた関西からの外国人誘客に向けた戦略を練る。

【取組の概要】

- ・快適な滞在環境の提供
 （外国人にやさしい町づくり、キャッシュレス環境の構築、空き店舗の活用）
- ・日本遺産地域プロデューサーの活躍
- ・台湾台中市温泉観光協会との連携<温泉観光友好交流連携協定締結団体>
- ・鳥取県交流人口拡大本部、東京本部、関西本部との連携強化

③ 広域連携による観光事業のマッチング

広域的かつ多角的視点による事業提案は、事業プランのボトムアップにつながる。鳥取県には本町のほかに「33. 地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市（大山町ほか）」、「39. 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落（鳥取市ほか）」、「78. 日本海の風が生んだ絶景と秘境～幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」（鳥取市ほか）」という3つの日本遺産があるが、小さな地域のメリットを活かし、連携した取組が期待できる。このうち大山とは、三徳山とともに修験の霊場として同時期に大きな勢力を誇った歴史があり、両者が大山隠岐国立公園に属するなど共通点があり、これまでも御朱印集めなど共同事業を実施している。各DMOや県観光連盟と連携し、県内日本遺産認定地や鳥取県東部・西部・岡山県蒜山地域とのさらなる広域連携事業に向けた新たなマッチングを行い、宿泊拠点としての三朝温泉、さらには本町日本遺産の魅力を活用した誘客の促進に結びつける。

【取組の概要】

- ・ 広域連携事業の実施<レンタカーによる日本遺産周遊プランなど>
- ・ 各エリアの観光事業とのマッチング
- ・ 大山・三徳山満願成就祈願特別御朱印集めの継続実施
- ・ 大山&三徳山連続登山ツアー

④ 新型コロナウイルス感染症による新たな動向への対応

県内や近隣県からのマイクロツーリズム、少人数旅行、一人旅などが増加する傾向を捉え、今まで以上に個人のお客様への対応を充実させるとともに、健康志向やアウトドア志向への対応として、電動アシスト付自転車やウォーキングを観光メニューとしてとり入れ、日本遺産のストーリーを体験するツールとして活かす。

一方で、教育旅行の需要において関西や関東、広島といった定番の地域から地元志向が高まっており、近隣県に向け日本遺産を活用した教育旅行プランの企画提案を行っている。

今後は、ストーリーを活かすための体験や環境維持、農業体験などをテーマとする地域密着型のイベントを月替わりで開催するなど、三徳山と三朝温泉、地域を巻き込んだ取組として発展させていく。

【取組の概要】

- ・ 農山村（田舎）体験メニューの商品化
- ・ 教育（修学）旅行プラン<県内教育旅行等誘致>
- ・ 日本遺産の構成要素を活用した企業研修
- ・ サイクリングで巡る日本遺産<電動アシスト付自転車による周遊観光>

- ・ウォーキングで巡る日本遺産〈三徳山と三朝温泉、小鹿溪を巡るコース〉
- ・夜の三朝温泉魅力発信事業（まち歩き）

⑤ 観光インフラの整備

○交通網について

三徳山三朝温泉への交通アクセスは、民間の路線バスによるJR倉吉駅を起点とするダイヤが1時間に1本程度運行されており、JR等の主要な特急列車との接続も考慮されている一方で、時刻表やJR駅ホームとバスターミナルの接続などアクセス環境に課題が残る。このため、ホームページ等を点検しスムーズな移動にむけ情報を整理するとともに、交通事業者との連携を強化する。また、県内路線バス乗り放題パス（3日間）や山陰インバウンド機構が発行するインバウンド向けデジタルパスなどを活用し、利便性の向上に努める。

さらに、コロナ禍後のインバウンド需要に備え、空港からのアクセスの利便性を高めるため、交通事業者と連携し2次交通網（デマンド型乗り合いタクシーなど）の確保を目指す。

加えて、大阪、広島、岡山など都市部から運行されている季節限定直行バス（冬期間限定、旅館組合）において日本遺産のストーリーや映像コンテンツを活用した観光商品メニューを紹介し、リピーターの確保につなげる。

コロナ禍で運休を余儀なくされている海外航空路線については、県など関係機関の動きと連携し再開に向けた取組を進める。

○案内看板の充実

全体的に町内の「日本遺産」表示が少なく、三徳山三朝温泉地内の案内看板を含め再点検し整備する。これにより「日本遺産」の表示を増やす。

また、改めて日本遺産のストーリーゆかりの地を検証し、その場所に説明施設を設置する。

【取組の概要】

- ・三徳山蜜坊駐車場、門前橋、三朝温泉多目的駐車場、温泉本通りなど
- ・三朝神社（大久保左馬之祐）、湯村（三朝温泉）創始者の墓など
- ・三朝温泉－三徳山（名湯と修験の道）整備

○地域BWA（地域広帯域移動無線アクセス）システムの活用（※（vii））

令和4年度に三朝温泉において開局予定。宿泊施設や屋外公共スペース等におけるWi-Fi環境の提供が可能となる。旅行者、なかでもインバウンドに対する情報環

境の改善が図られる。

- ※ (vii) 地域においてデジタル・デバイドを解消するため、無線を活用したラストワンマイルのブロードバンドサービスを提供するもの。三朝温泉における無線インターネット接続や温泉街でのフリーWi-Fi等の提供が見込まれる。

6 普及啓発

① 魅力的な学習・体験機会の提供

日本遺産に対する認知度調査を実施し、住民や事業者向けの学習・体験内容の充実につなげる。日本遺産と町の歴史や文化の関連性を含めた総合的な学びを通じて日本遺産と地域の結びつきを理解し、日本遺産に対する町民の誇りと愛着心を育てる。また、学習で得た知識と意欲により、文化財等を守り、継承する担い手として活躍できる人材の育成につなげる。

【取組の概要】

- ・ 地域住民、事業者向け認知度調査の実施
- ・ 「日本遺産認定三朝町民の日」制定と関連事業への取組
- ・ 三朝温泉への入浴や伝統行事への参加の奨励〈お風呂の日の設定など〉
- ・ 町報や図書館等公共施設を活用した日本遺産コーナーの開設
- ・ PR関連グッズの提供〈のぼり旗、名刺の台紙など〉

② 学校教育との連携

日本遺産のある町に対する誇りと愛着を感じる人材を育てるため、学校教育での地域学習や教職員研修を通じて地域の魅力を学び、体験する機会を創出する。

令和元年度より三朝小学校学年親子会が投入堂参拝と併せて行者道の山護運動に協力。また、令和2年度には町内の小中学校が修学旅行で三朝温泉の旅館に宿泊し日本遺産に登録されたラドン泉を体験するなど、日本遺産のストーリーを学ぶ取り組みが進んでいる。令和4年度から計画されるコミュニティスクールの取組とも連携させ、地域の民間プレーヤーを講師に迎え、日本遺産を守る活動や観光に活かす取組、その成果などを紹介し、“伝える”ことを通して「子どもたちの学習」と「プレーヤーの育成」の相乗効果を引き出す。

【取組の概要】

- ・ 「日本遺産認定三朝町民の日」を活用した教育現場における総合学習
- ・ GIGAスクール構想を活用した町内小中学校日本遺産学習の実施

- ・ 姉妹都市等との交流活動における日本遺産の紹介
 - ・ 町内小中学校教職員研修における日本遺産学習の実施
- ＜住民学習会との連携＞
- ・ 各種出前講座の開催、動画配信への取組

7 情報編集・発信

三朝温泉観光協会（以下、「観光協会」という。）を情報発信における担当部署と位置づけ、役場推進チームと連携したさらなる情報発信に努める。既存のウェブサイト（三朝町公式、三朝温泉公式／英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語対応済み）の継続活用と内容の充実や情報発信を増やすこと（頻度のルール化）、さらには関係団体内でハッシュタグを共有し、情報拡散力の強化など情報発信の充実につなげる。

SNSを活用した外国人向け情報発信については、日本政府観光局（JNTO）の方針に基づき日本遺産地域プロデューサーやインバウンドコーディネーター、各DMOと連携し積極的な取組を行う。

① 日本遺産情報発信ビジョンの策定

町による光ケーブルを活用したネットワークが完成し、民間ケーブルテレビ会社による高速インターネットサービスや地域BWA（地域広帯域移動無線アクセス）システムの開局が予定されていることから、三徳山三朝温泉エリアにおける情報発信について、デジタルマーケティングへの取組を念頭においた新たな情報発信指針を定める。

② デジタルマーケティングへの対応

スマートフォンやタブレット端末の普及、IoTの台頭をきっかけとして、電子デバイスやインターネットを活用したプロモーション、いわゆる「デジタルマーケティング」への訴求性が高まっており、日本遺産の観光PRや広告宣伝などのデジタル化を進め、新しい流れに対応することを通じて、旅行者の認知機会の増加やマーケティング効果の充実を図り、本町日本遺産への誘客の促進につなげる。

【取組の概要】

- ・ チラシやポスター、エリアマップなど配布物のデジタル化
- ・ WEBアンケートの実施
- ・ GIGAスクール構想への教材提供

③ SNS等を活用した国内外への情報発信の拡大

【取組の概要】

- ・国内向け情報の発信頻度を高める取組<目標：週1回の定期発信>
- ・外国人向け情報発信の充実
- ・友好姉妹都市等のあるフランス・台湾に向けた情報発信の強化
- ・日本遺産アーカイブ（YouTubeチャンネル）の立ち上げ
- ・岡山大学 惑星物質研究所 外国人留学生の活用
- ・鳥取大学 学生団体（田舎応援戦隊 三徳レンジャー：三朝温泉観光大使）
- ・鳥取短期大学 学生団体の活用
- ・日本遺産地域プロデューサーの活用

（3）自立的・継続的な取組

1 ストーリーを持続的に地域に浸透させるために

本町の日本遺産を構成する三徳山と三朝温泉は、それぞれ個性的な魅力を有し、開山・開湯以来、修行の場として、あるいは身を清める場として多くの人々を惹きつけてきた。日本遺産は、これらを「六根清浄と六感治癒の地」として結び付けたものであるが、三朝温泉が古くから三徳山参拝の前後に心身を清め、癒す場であったことは、広く認識されている歴史的事実であり、三徳山と三朝温泉が町が持続的に発展するためには必要不可欠な観光資源であることは理解が進んでいる。

一方、ストーリーが十分に活かされていない点が課題であることから、旅行者は日本遺産のストーリーにのせて町の自然・文化・歴史を十分に体験し心に残る旅を期待し、地域住民はその状況を繰り返し肌で感じつつ、日本遺産を支えるプレーヤーとして高い評価を受け、定着していくなかで、ストーリーが一層大切なものとして地域に根付き、刻み込まれていく。こうした流れを繰り返すことにより、日本遺産事業における町づくりが進展していく。

2 これからのインバウンドと広域連携

インバウンド旅行者にアピールできる魅力として、昔ながらの温泉文化やノスタルジックなまち並み、三徳山の歴史や寺院としての価値などが挙げられる。国際交流の町としてフランス大使館や歴代のフランス人国際交流員（11人）、また、台湾台中市温泉観

光協会との連携強化に取り組んでいることから、引き続きこれらの結びつきを活かし、日本遺産のPRを行い、観光誘客に努めるとともにインバウンドのニーズに即した環境整備を推進していく。

これまで進んでいなかった広域連携については、日本遺産認定から6年が経過し、将来を見据えた綿密な戦略とそれを実行していく運営体制の構築が急務である。新たな魅力創出を狙いとし、各DMOや県観光連盟との連携のもと、県域を越えた広域連携による旅行企画の造成などにも取り組み、持続可能な元気な観光地づくりにつなげる。

3 日本遺産を活かす会の役割と将来構想

今回の日本遺産事業推進体制の見直しは、コロナ禍で三朝温泉の将来が見通せない状況に危機感を持つ観光協会長などが発起人となり行われた。いずれも観光振興に携わる組織・団体の長などであり、三朝温泉の将来に向け、改めてタッグを組み、日本遺産を活かすプランを柱に据えて取り組む方針である。

「日本遺産を活かす会」の役割は、誘客を中心とした日本遺産事業を企画運営することであり、地域活性化計画の事業プランは、プロジェクトリーダーの協議を経て成案となり、観光協会を中心に旅館組合や商工会、各DMO、さらには三徳山三佛寺や民間事業者など構成員であるプレーヤーの手によって実践に移される。

事業全体の進捗管理や事業予算の把握、成果のまとめについて、日本遺産を活かす会と実施本部である役場推進チーム（観光交流課）が担当し、事業成果を共有しながら次のステップにつなげていく。

日本遺産を活かす会

<プロジェクトリーダー>

三朝温泉観光協会会長（日本遺産を活かす会会長）

三朝温泉旅館協同組合理事長、三朝町商工会会長、（特非）NPOみささ温泉理事長
（一社）鳥取中部観光推進機構事務局長、三徳山三佛寺住職、三朝町地域振興監、
日本遺産地域プロデューサー

4 継続的な民間事業者への働きかけ

日本遺産を活かす会の構成団体である観光協会や旅館組合、商工会（いわゆる観光3団体）は、事業実施に向け相互理解と連携の強化を図り、会員である民間事業者への積極的な働きかけを行う。

また、日本遺産を活かす会で企画された事業については、各DMOや県観光連盟、NPOとの結びつきを活かし、民間事業者への提案を行いながら、積極的な参画と協力を求めていく。

5 事業運営に係る自主財源の確保について

観光インフラ等施設整備は、日本遺産活用推進協議会と町が協議し整備計画に基づき取り組む。事業費は基本的には公的機関の負担であり、有効な財源の確保を通じて迅速で効果的な整備を進める。

日本遺産活用推進協議会や日本遺産を守る会、日本遺産を活かす会は、会員や参加団体からの会費や負担金、行政からの業務委託費や事業補助金を主な財源として運営される。自立自走できる体制づくりに向け、組織関係者の意識改革に取り組み、自立自走につながる事業プランを検討し実践していく。

日本遺産事業を円滑に進めるための財源のひとつとして、三朝町ふるさと応援寄附金の一部を活用し、事業実施に向けた財源を確保するとともに、PR活動の一環として全国への情報発信を行う。

【取組の概要】

- ・ 日本遺産を活用した町の振興を目的としたふるさと納税の一部充当
- ・ 日本遺産体験ツアーや関連商品を活用した返礼品の拡充

さらに、民間事業者による日本遺産を活用した取組が安定的に自立したものとなっていくためには、自主財源として日本遺産の活用を通じて得られる収益や日本遺産の価値や魅力に対してもたらされる資金、さらには、意欲ある民間事業者による投資や文化財を管理する寺院の資金、自治体の予算等を確保し取組に活かしていく。民間事業者の財源の確保については、以下の取組を中心に進めていく。

- ・ 「六根清浄と六感治癒の地」への誘客に努め、関係事業者の収益の増加が新たな商品開発や三徳山の保全に向けられる。
- ・ 日本遺産の魅力を体験した旅行者からの寄付金や民間事業者等が行うクラウドファンディングなどを活用した資金の調達を図る。
- ・ ストーリーを活用した新規顧客を取り込む旅行商品の企画やお土産品の開発などを通じて、全体的な収益の増加につなげていく。
- ・ 試行的な事業は、モニターツアーなどを活用してその経済的効果を検証するなど、将来的に自走できることを目指しながらの取組とする。
- ・ 国県や町、各種団体による支援事業は、その目的を踏まえて活用し、日本遺産を

活かす会等は支援事業についてプレーヤー等へ積極的な情報提供を行う。
(例：三朝町観光商品造成支援事業など)

(4) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

- 1 日本遺産の魅力発信や地域を巻き込んだイベントを実施することにより、地域住民や子どもたちの文化・歴史に対する理解ならびに環境の維持に向けた気持ちの芽生えにつなげる。また、誇りと愛着心の醸成が進むことで構成文化財の適切な管理（清掃や保全活動など）を誘引し、地域ぐるみの活発な活動へとつなげる。
- 2 旅行者が増えることにより、飲食店、物販店、宿泊施設の需要が高まり、地元経済が潤う。この結果、地域住民や事業関係者において町づくりや地域経済の活性化と日本遺産の関係が意識され、文化財に対する保護意識の高まりから、寄付や自発的な保全活動、ボランティア活動への参加の拡大が期待される。
- 3 ふるさと納税において、日本遺産を活用した町の振興に係る事業メニューを通じて、構成文化財の保存・活用に取り組む。
- 4 小中学校の児童生徒を対象とした学習・体験を継続し、本町の歴史と文化に誇りと愛着心を持つ子どもたちを育成し、未来に向けて保存・伝承活動に取り組む人材を確保する。

(5) 他の観光施策との連携

鳥取県や鳥取中部ふるさと広域連合等が展開する「癒し」をテーマとした広域観光ビジョンと連携し、広域周遊や滞在型観光の推進を行う。

1 鳥取県

鳥取県の観光振興指針「ようこそ ようこそ鳥取県運動 取組指針」に基づき、日本遺産を三朝町ならではの観光資源として磨き上げ、体験メニューの造成等を通じて特徴あるツーリズムを展開するとともに、県の主要な観光施策と連携した事業を推進する。

(令和3年度の鳥取県の主な観光施策)

- ・サイクリングツーリズム
- ・魅力ある滞在型観光地づくりの推進
- ・ウォーキングリゾートの推進
- ・ワーケーションの拠点整備
- ・情報発信

2 鳥取中部ふるさと広域連合（近隣市町）（※（viii））

第2次鳥取中部広域観光ビジョン（期間：平成31年度～令和5年度）で三徳山と三朝温泉は鳥取中部1市4町の観光概要の分野別観光素材において「特に外国人観光客に注目される資源」と位置付けられており、近隣市町と連携し、地域連携DMOによる事業に取り組む。

※（viii）鳥取中部ふるさと広域連合

倉吉市、湯梨浜町、三朝町、北栄町、琴浦町の鳥取県中部地区1市4町における広域行政組織

（（一社）鳥取中部観光推進機構の施策項目 令和3～5年度）

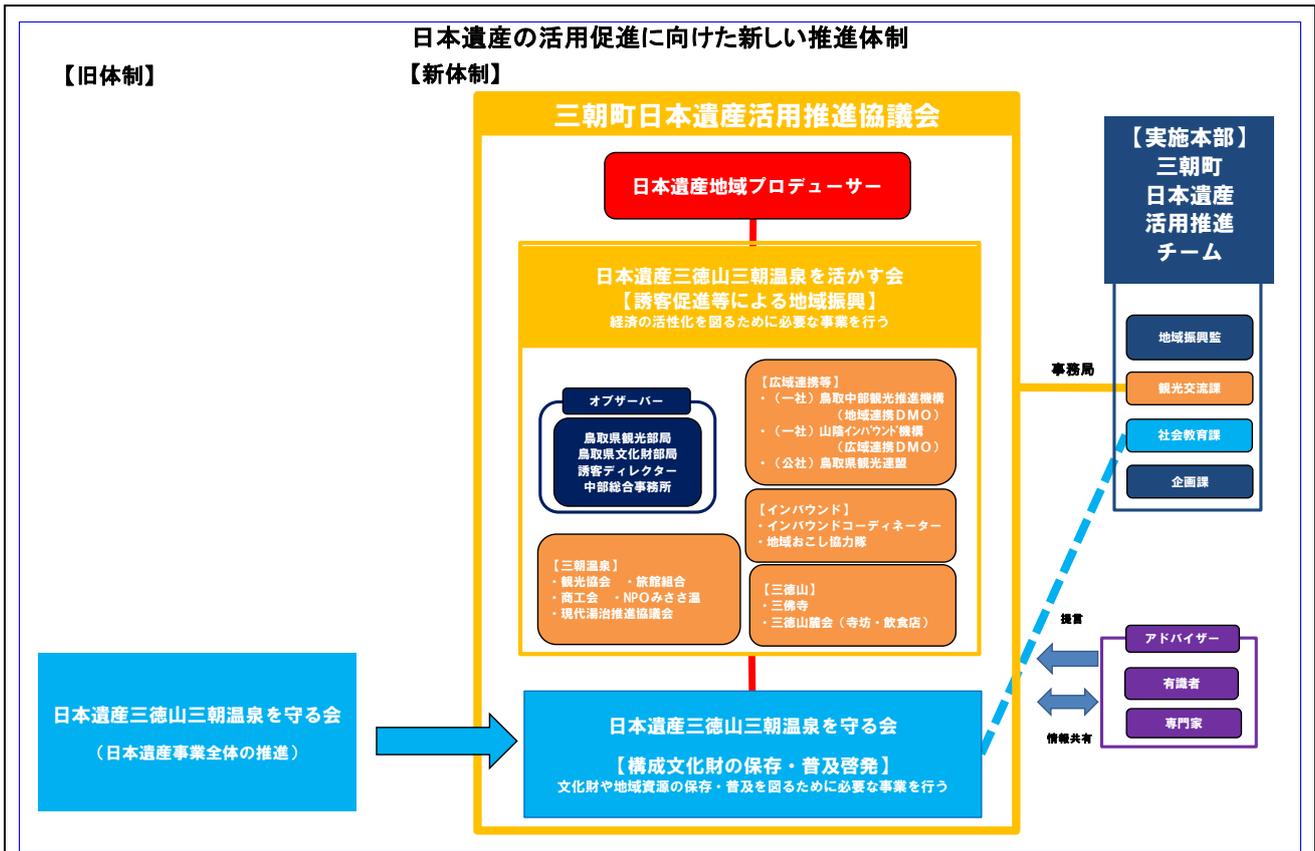
- ・ 圏域情報のデジタル化の推進（デジタルマップ、マーケティング）
- ・ 観光スキルアップサイト構築事業
- ・ ワークーション整備計画策定事業
- ・ 情報発信
- ・ インバウンド誘客対策事業

3 （公社）鳥取県観光連盟

自然景観、温泉、グルメ、文化歴史、体験・アクティビティの魅力的な観光要素を活かして、効果的な事業展開に取り組む。

- ・ 着地型観光促進事業
- ・ 地域観光素材ブラッシュアップ支援事業

（6）実施体制



1 主体：三朝町日本遺産活用推進協議会（事業の総合調整）

○日本遺産三徳山三朝温泉を活かす会（事業企画運営、進捗管理、予算管理）

- 三朝温泉観光協会（会員数 98）、三朝温泉旅館協同組合（会員数 24）
- 三朝町商工会（会員数 156）、現代湯治推進協議会
- （一社）鳥取中部観光推進機構（地域連携DMO）
- （一社）山陰インバウンド機構（広域連携DMO）
- （公社）鳥取県観光連盟
- （特非）NPOみささ温泉
- 三徳山三佛寺、三徳山麓会
- インバウンドコーディネーター
- 地域おこし協力隊

○日本遺産三徳山三朝温泉を守る会（構成文化財の保全・普及啓発活動）

- 会員（個人 405 名 団体 15 団体）
- 主な構成団体：
- 地域協議会（6 団体）、文化財保護調査委員会
- 三朝温泉観光団体（3 団体）
- 鳥取県日仏友好協会、倉吉ユネスコ協会、(株)山陰合同銀行

三徳山三佛寺、輪光院、正善院、皆成院
鳥取県

○日本遺産地域プロデューサー

【推進本部】：三朝町 （地域振興監、観光交流課、企画課）
町教育委員会（社会教育課）

2 評価について

- 三朝町総合計画審議会
 - 三朝町まち・ひと・しごと創生推進会議
 - 三朝町日本遺産活用推進協議会
-

【民間事業者等との連携】

<観光関係団体等>

- ・三朝温泉観光協会 ・三朝温泉旅館協同組合 ・三朝町商工会
- ・(特非) NPOみささ温泉 ・三徳山三佛寺 ・三徳山麓会
- ・三朝温泉現代湯治推進協議会 ・(一社) 鳥取中部観光推進機構 (地域連携DMO)
- ・(一社) 山陰インバウンド機構 (広域連携DMO) ・(公社) 鳥取県観光連盟
- ・台湾台中市温泉観光協会

<新商品開発プレイヤー>

- ・(株)新藤食品 (濃縮三朝温泉水の研究)
- ・白狼堂 (三徳山関連商品、体験ツアー、寺カフェ・スイーツの取組)
- ・木屋旅館 (三徳山体験ツアー、現代湯治の取組)

<交流市町関係>

- ・フランス国ラマルー・レ・バン町 (フランス大使館)
- ・台湾台中市石岡区 ・京都府城陽市 ・滋賀県多賀町 ・茨城県大洗町

<報道関係>

- ・日本海ケーブルネットワーク(株) ・(株)新日本海新聞社

<教育関係>

- ・ 国立大学法人鳥取大学 ・ 国立大学法人岡山大学 ・ 岡山大学惑星物質研究所
- ・ 鳥取短期大学 ・ 静宜大学（台湾台中市）

<住民等活動>

- ・ 地域協議会（小鹿・三徳・みささ村・高勢・賀茂・竹田）
- ・ 三朝町私設応援団（東京勝手連）

<交通関係>

- ・ 日ノ丸自動車(株) ・ 日本交通(株) ・ 全日本空輸(株)（ANA） ・ 智頭急行(株)

(7) 地域活性化計画における目標と期待される効果

期待される効果	<p>(1) 日本遺産の魅力を高める取組（「六根清浄と六根治癒」や地元の無形民俗文化財の体験ツアー、インバウンド受け入れ体制の充実、多様化する食のニーズに合わせ地元食材を活用した食の提供、世界有数のラドン温泉の健康効果の解明に向けた研究）を継続し、魅力的な観光地を目指す。これにより多くの旅行者による賑わいが生み出される。</p> <p>(2) 地域の賑わいにより、地域の観光業者、商工業者がその恩恵を受け、更なる商品開発が進められる。地域資源の活用により地域経済が発展、循環する。</p> <p>(3) 住民が日本遺産の取組を通じて、三朝町の歴史や文化、貴重で魅力的な地域資源について体験し理解することで、町に対する誇りと愛着を持つ。これにより旅行者や関係者に対し、町民が胸を張って町の魅力をアピールすることで、活力のあるまちづくりが進んでいく。</p>
---------	--

設定目標 I : 日本遺産を活用した集客・活性化

観光客入込み数		具体的な指標：観光客入込数（暦年）				
年度	実績			目標		
	平成 30 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年
数値	346,536 人	347,330 人	246,244 人	246,000 人	347,000 人	399,000 人
目標値の設定の考え方 及び把握方法	<p>令和 4 年度にはコロナ禍前の令和元年度の 347,000 人に戻すことを目標とする。令和 3 年 1 月～6 月の実績は前年の約 8 割であるが、下期の入込が回復することを想定して、令和 3 年度は令和 2 年度並みの入込数を設定。</p> <p>数値は三朝温泉宿泊者数と日帰り入浴客数を集計したもの</p>					
関連事業	<p>「日本遺産を活かす会」活動 1-③</p> <p>日本遺産活用調査事業（旅行者向け） 2-①</p> <p>広域連携・インバウンドモニターツアー 2-②</p> <p>三徳山学術調査事業（修験道発掘調査等） 2-③</p> <p>ラドン泉の吸入による健康・予防治療効果研究事業 2-④</p> <p>日本遺産の町「観光人財」育成プロジェクト 3-①</p> <p>日本遺産地域プロデューサー設置・育成事業 3-②</p> <p>地域民間プレーヤー養成事業 3-③</p> <p>文化財の守り人養成事業 3-④</p> <p>三徳山遥拝所再整備事業 4-①</p>					

	<p>日本遺産ビジターセンター整備事業 4-②</p> <p>三徳山VR(バーチャルリアリティ)整備事業 4-③</p> <p>指定文化財等保存修理事業 4-④</p> <p>日本遺産環境整備活動事業 4-⑤</p> <p>窓口情報一元化に向けた機能充実 4-⑥</p> <p>山陰地域限定特例通訳案内士活用事業 4-⑦</p> <p>三朝温泉BWA(地域広帯域移動無線アクセス)整備事業 4-⑧</p> <p>日本遺産インバウンド誘客促進事業 5-①</p> <p>日本遺産関連商品企画開発事業 5-②</p> <p>三徳山三朝温泉・自転車で巡る日本遺産周遊事業 5-③</p> <p>教育旅行誘致促進事業 5-④</p> <p>日本遺産三徳山三朝温泉連泊推進事業 5-⑤</p> <p>「名湯と修験の道を旅するプラン」事業 5-⑥</p> <p>日本遺産を活かす景観計画策定事業 5-⑧</p> <p>日本遺産認知度調査事業(地域住民・事業者等) 6-①</p> <p>「日本遺産認定三朝町民の日」推進事業 6-②</p> <p>GIGAスクール構想を活用した町内小中学校との連携事業 6-④</p> <p>日本遺産情報発信ビジョン策定事業 7-①</p> <p>情報媒体のデジタル化事業 7-②</p> <p>三朝温泉観光素材作成事業 7-③</p> <p>町公式日本遺産HP・日本遺産ポータルサイト等広報媒体の活用 7-④</p>
--	---

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
外国人観光客数		具体的な指標：外国人観光客数(暦年)				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値	20,363人	17,931人	1,689人	1,000人	18,000人	20,000人
目標値の設定の考え方 及び把握方法	令和5年度にはインバウンドが回復することを想定し、コロナ禍前の令和元年度の18,000人に戻すことを目標とする。令和3年については、令和3年1月～6月の実績がほぼ0人であるため令和2年度下期並みの入込数を設定。数値は三朝温泉宿泊者数のうち外国人宿泊者数を集計したもの。					
関連事業	<p>「日本遺産を活かす会」活動 1-③</p> <p>日本遺産活用調査事業(旅行者向け) 2-①</p> <p>広域連携・インバウンドモニターツアー 2-②</p>					

	<p>日本遺産の町「観光人財」育成プロジェクト 3-①</p> <p>日本遺産地域プロデューサー設置・育成事業 3-②</p> <p>地域民間プレーヤー養成事業 3-③</p> <p>文化財の守り人養成事業 3-④</p> <p>日本遺産ビジターセンター整備事業 4-②</p> <p>指定文化財等保存修理事業 4-④</p> <p>窓口情報一元化に向けた機能充実 4-⑥</p> <p>山陰地域限定特例通訳案内士活用事業 4-⑦</p> <p>三朝温泉BWA（地域広帯域移動無線アクセス）整備事業 4-⑧</p> <p>日本遺産インバウンド誘客促進事業 5-①</p> <p>日本遺産関連商品企画開発事業 5-②</p> <p>三徳山三朝温泉・自転車で巡る日本遺産周遊事業 5-③</p> <p>日本遺産三徳山三朝温泉連泊推進事業 5-⑤</p> <p>「名湯と修験の道を旅するプラン」事業 5-⑥</p> <p>大学・行政との協力連携事業 6-③</p> <p>日本遺産情報発信ビジョン策定事業 7-①</p> <p>情報媒体のデジタル化事業 7-②</p> <p>町公式日本遺産HP・日本遺産ポータルサイト等広報媒体の活用 7-④</p>
--	--

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
宿泊者数		具体的な指標：宿泊者数（暦年）				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値	314,132人	313,878人	227,998人	227,000人	314,000人	387,000人
目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>令和4年度には、商品開発や情報発信の強化により新規顧客の取り込みを積極的に行いコロナ禍前の令和元年度の314,000人に戻すことを目標とする。令和3年度はコロナの影響もあり令和2年度と同水準程度を目標とした。数値は三朝温泉宿泊者・三徳山宿坊宿泊者数を集計したもの。</p>					
関連事業	<p>「日本遺産を活かす会」活動 1-③</p> <p>日本遺産活用調査事業（旅行者向け） 2-①</p> <p>ラドン泉の吸入による健康・予防治療効果研究事業 2-④</p> <p>日本遺産の町「観光人財」育成プロジェクト 3-①</p> <p>地域民間プレーヤー養成事業 3-③</p> <p>日本遺産ビジターセンター整備事業 4-②</p> <p>窓口情報一元化に向けた機能充実 4-⑥</p>					

	三朝温泉BWA（地域広帯域移動無線アクセス）整備事業 4-⑧ 日本遺産インバウンド誘客促進事業 5-① 日本遺産関連商品企画開発事業 5-② 三徳山三朝温泉・自転車で巡る日本遺産周遊事業 5-③ 教育旅行誘致促進事業 5-④ 日本遺産三徳山三朝温泉連泊推進事業 5-⑤ 「名湯と修験の道を旅するプラン」事業 5-⑥ 季節限定直行バス運行事業 5-⑦ 町公式日本遺産HP・日本遺産ポータルサイト等広報媒体の活用 7-④
--	---

設定目標Ⅰ：日本遺産を活用した集客・活性化						
三徳山入込客数		具体的な指標：三徳山入込客数（暦年）				
年度	実績			目標		
	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
数値	40,537人	47,282人	33,026人	33,000人	47,000人	63,000人
目標値の設定の考え方 及び把握方法	令和4年度には、商品開発や情報発信の強化により新規顧客の取り込みを積極的に行い、コロナ禍前の令和元年度の47,000人に戻すことを目標とする。令和3年度はコロナの影響もあり令和2年度と同水準程度を目標とした。数値は三徳山総合受付所が把握する入込客数。					
関連事業	「日本遺産を活かす会」活動 1-③ 日本遺産活用調査事業（旅行者向け） 2-① 広域連携・インバウンドモニターツアー 2-② 三徳山学術調査事業（修験道発掘調査等） 2-③ 日本遺産地域プロデューサー設置・育成事業 3-② 地域民間プレーヤー養成事業 3-③ 文化財の守り人養成事業 3-④ 三徳山遥拝所再整備事業 4-① 日本遺産ビジターセンター整備事業 4-② 三徳山VR（バーチャルリアリティ）整備事業 4-③ 指定文化財等保存修理事業 4-④ 日本遺産環境整備活動事業 4-⑤ 窓口情報一元化に向けた機能充実 4-⑥ 山陰地域限定特例通訳案内士活用事業 4-⑦ 日本遺産インバウンド誘客促進事業 5-①					

	日本遺産関連商品企画開発事業 5-② 三徳山三朝温泉・自転車で巡る日本遺産周遊事業 5-③ 教育旅行誘致促進事業 5-④ 日本遺産三徳山三朝温泉連泊推進事業 5-⑤ 「名湯と修験の道を旅するプラン」事業 5-⑥ 日本遺産認知度調査事業（地域住民・事業者等） 6-① 大学・行政との協力連携事業 6-③ 情報媒体のデジタル化事業 7-② 町公式日本遺産HP・日本遺産ポータルサイト等広報媒体の活用 7-④
--	--

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
地域の文化に誇りを感じる住民の割合		具体的な指標：地域の文化に誇りを感じる児童生徒の割合				
年度	実績			目標		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
数値	-	-	-	60%	70%	80%
目標値の設定の考え方及び把握方法		設問についてこれまでアンケートをとれていない為、令和3年度は半数以上の60%を目標とし、10%ずつの上昇を目指す。最終的には90%以上の推移を目指す。町内の児童生徒に対するアンケートを実施して把握する。				
関連事業		「日本遺産を守る会」活動 1-② 三徳山学術調査事業（修験道発掘調査等） 2-③ ラドン泉の吸入による健康・予防治療効果研究事業 2-④ 三徳山VR（バーチャルリアリティ）整備事業 4-③ 指定文化財等保存修理事業 4-④ 日本遺産環境整備活動事業 4-⑤ 「日本遺産認定三朝町民の日」推進事業 6-② 町内小中学校教職員を対象とした日本遺産研修事業 6-⑤ 「日本遺産コーナー」の拡充（町報・パネル展） 6-⑥				

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
日本遺産の認知度		具体的な指標：日本遺産の認知度（住民）				
年度	実績			目標		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
数値	-	-	-	70%	80%	90%

目標値の設定の考え方 及び把握方法	当初目標を住民の70%とし、毎年10%の増加を目指す。イベント参加者に対するアンケート調査を実施。
関連事業	「日本遺産を守る会」活動 1-② 文化財の守り人養成事業 3-④ 日本遺産環境整備活動事業 4-⑤ 日本遺産認知度調査事業（地域住民・事業者等） 6-① 「日本遺産認定三朝町民の日」推進事業 6-② 大学・行政との協力連携事業 6-③ GIGAスクール構想を活用した町内小・中学校との連携事業 6-④ 町内小中学校教職員を対象とした日本遺産研修事業 6-⑤ 「日本遺産コーナー」の拡充（町報・パネル展） 6-⑥ 町公式日本遺産HP・日本遺産ポータルサイト等広報媒体の活用 7-④

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
日本遺産の認知度		具体的な指標：日本遺産の認知度（観光客）				
年度	実績			目標		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
数値	-	-	-	30%	40%	50%
目標値の設定の考え方 及び把握方法	日本遺産の調査、運営を行う一般社団法人フュートゥラディシオンワオが2018年に実施した「日本遺産と旅行に関する意識調査」の、日本遺産を「知っている」と回答した割合29.4%をベースとして採用。観光客に対するアンケート調査を実施。					
関連事業	「日本遺産を活かす会」活動 1-③ 日本遺産活用調査事業（旅行者向け） 2-① 日本遺産地域プロデューサー設置・育成事業 3-② 日本遺産ビジターセンター整備事業 4-② 三徳山VR（バーチャルリアリティ）整備事業 4-③ 窓口情報一元化に向けた機能充実 4-⑥ 山陰地域限定特例通訳案内士活用事業 4-⑦ 日本遺産インバウンド誘客促進事業 5-① 大学・行政との協力連携事業 6-③ 日本遺産情報発信ビジョン策定事業 7-① 情報媒体のデジタル化事業 7-② 町公式日本遺産HP・日本遺産ポータルサイト等広報媒体の活用 7-④					

設定目標Ⅱ：日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化						
日本遺産を活用した取組数		具体的な指標：構成団体（民間事業者）が日本遺産を活用して行った事業、取組の数				
年度	実績			目標		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
数値	67件	69件	84件	75件	80件	85件
目標値の設定の考え方及び把握方法	令和3年度以降は地域活性化計画の（8）に挙げた事業のなかで、参画団体や民間事業者による、日本遺産を活用した取組の数をカウントする。毎年新たな取り組みを5つ以上創出することを目指す。					
関連事業	「日本遺産を活かす会」活動 1-③ 日本遺産の町「観光人財」育成プロジェクト 3-① 日本遺産地域プロデューサー設置・育成事業 3-② 地域民間プレーヤー養成事業 3-③ 日本遺産関連商品企画開発事業 5-②					

設定目標Ⅲ：日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立						
ふるさと納税額		具体的な指標：三朝町ふるさと応援寄附金				
年度	実績			目標		
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
数値	-	-	25,874千円	27,000千円	28,000千円	29,000千円
目標値の設定の考え方及び把握方法	令和2年から追加した温泉と町の振興を用途とした寄付項目によるふるさと納税の額とし、令和2年実績に基づき、返礼品の数を毎年新たに5つ以上増やすことを目指し、毎年1,000千円の増を目指す。					
関連事業	ふるさと応援寄附金 1-⑤					

(8) 地域活性化のために行う事業

(8) - 1 組織整備

(事業番号 1 - ①)

事業名	「日本遺産活用推進協議会」活動		
事業内容	戦略的に日本遺産のストーリーの魅力を活かすための新たな事業統括組織として設置。下部組織として「日本遺産を守る会」と「日本遺産を活かす会」を配置する。役割分担を明確化しながらこれまで以上に専門性の高い協議とスピーディな事業展開につなげる。本協議会は各会で実施されるそれぞれの日本遺産事業について総合調整と全体のPR活動等を行う。 設 置：令和3年9月14日 年間計画：計画（11月）→活動（通年）→評価（7月）→改善（8月） 活動内容： ○事業調整会議、日本遺産懇談会、総会（年4回） ○「日本遺産の町」PR事業 ○情報発信事業 ○日本遺産の町「観光人財」育成プロジェクト		
実施主体	日本遺産活用推進協議会、実施本部		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	推進協議会の開催回数
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：3回 令和4年度：4回 令和5年度：4回		
事業費	令和3年度：594千円 令和4年度：800千円 令和5年度：800千円		

(事業番号 1-②)

事業名	「日本遺産を守る会」活動		
事業内容	<p>日本遺産事業実施体制の見直しと併せて、これまでの「調査研究部会」「保護保全活用部会」「啓発広報部会」を整理統合し、「文化財保存部会」「普及啓発部会」「環境美化部会」に再編。住民参加の草の根的な活動の充実を通じて、旅行者を受け入れる「もてなす環境づくり」と「三徳山と三朝温泉に対する誇りと愛着心を育てるための普及啓発」につなげる。</p> <p>年間計画：計画（11月）→活動（通年）→評価（7月）→改善（8月）</p> <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化財保存部会：調査研究支援、担い手対策と育成、山護運動 ○普及啓発部会：「日本遺産の日」の推進、認知度調査、学習会 ○環境美化部会：景観保全事業、温泉・参道一斉清掃、防災点検 		
実施主体	日本遺産を守る会、実施本部		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	個人・法人サポーター数	具体的な指標	日本遺産三徳山三朝温泉を守る会 会員数
実績値	平成30年度：389人 令和元年度：418人 令和2年度：404人		
目標値	令和3年度：420人 令和4年度：440人 令和5年度：460人		
事業費	令和3年度：1,000千円 令和4年度：1,000千円 令和5年度：1,000千円		

(事業番号 1-③)

事業名	「日本遺産を活かす会」活動		
事業内容	<p>日本遺産事業実施体制の見直しのなかで新たに設置。三徳山・三朝温泉関係者に加えて地域連携DMOや広域連携DMO、県観光連盟、NPOの参画を得て、日本遺産の活用による地域経済の活性化に取り組む。</p> <p>設 置：令和3年9月14日 年間計画：計画（11月）→活動（通年）→評価（7月）→改善（8月） 活動内容：</p> <p>＜企画立案・事業実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新商品開発：満足度調査、連泊プラン、体験商品、湯治ツアー ○広域連携・インバウンド：地域連携DMO フランス、台湾 ○情報発信：SNS、ガイドンス施設、ビジターセンター ○人材育成：ガイド人材、地域民間プレーヤー、 地域プロデューサー <p>※活かす会の事業企画に基づき構成団体が連携して事業を担当し、効果的な事業実施と振り返り（PDCAサイクル）を通じて、活発な活動につなげる。</p> <p>※観光情報の共有ツールの導入</p>		
実施主体	日本遺産を活かす会、実施本部		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	日本遺産ストーリー体験プラン参加人数
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：200人 令和4年度：300人 令和5年度：500人		
事業費	令和3年度：1,000千円 令和4年度：1,000千円 令和5年度：1,000円		

(事業番号 1-④)

事業名	「役場推進チーム」活動		
事業内容	<p>地域活性化計画を統括する「三朝町日本遺産活用推進協議会」の取組をサポートし、民間団体や地域住民の活動を強力に後押しするため、役場内に関係部署による役場推進チーム（推進協議会実施本部）を設置。民間事業者が自走に向けて取り組むための事業支援や環境整備、公的機関による調査研究の推進など日本遺産の目的達成に繋がる活動を展開する。</p> <p>設 置：令和3年7月21日</p> <p>活動内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ○推進協議会、日本遺産を守る会・活かす会の活動支援 ○大学や専門家など研究・調査活動への対応 ○その他、日本遺産の目的達成につながる事業支援 		
実施主体	実施本部（町、教育委員会）		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	役場推進チーム会議の開催回数
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：7回 令和4年度：12回 令和5年度：12回		
事業費	令和3年度：300千円 令和4年度：300千円 令和5年度：300千円		

(事業番号 1-⑤)

事業名	ふるさと応援寄附金		
事業内容	<p>日本遺産及び町の振興を願う個人から、三朝町ホームページ等を通じて寄附金を募り、当該寄附金を日本遺産関連事業の一部に活用する。</p> <p>これにより、「笑顔と元気があふれ 輝く町」を目指すため、地域資源の新たな魅力の掘り起こしと発信により、経済の活性化を図り、世界に通じる「日本遺産の町づくり」に取り組む。</p> <p>また、日本遺産のストーリーなどを活かした新しい企画商品を開発し、返礼品に加える。現在、旅館独自で造成した日本遺産体験プランもあり、これらのプランや商品を増やし、リピーターの確保につなげる取り組みとする。</p> <p>※令和2年度より基金目的に「三朝温泉及び町の振興に関する事業」を追加。</p>		
実施主体	町、日本遺産を活かす会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	ふるさと納税額	具体的な指標	ふるさと納税額 (三朝温泉及び町の振興に関する事業)
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：25,874千円		
目標値	令和3年度：27,000千円 令和4年度：28,000千円 令和5年度：29,000千円		
事業費	令和3年度：21,484千円 令和4年度：21,484千円 令和5年度：21,484千円		

(8) - 2 戦略立案

(事業番号2-①)

事業名	日本遺産活用調査事業（旅行者向け）		
事業内容	<p>日本遺産三徳山三朝温泉について、旅行者の認知度及び現状に対する満足度調査を行い、活用推進協議会等で課題を整理し、中長期戦略に反映させる。</p> <p>【調査の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行者向け認知度調査 （案内所や旅館、体験施設等で実施、WEBでフォロー） ・滞在終了後の満足度調査 ・SNS及びWEB媒体を使ったデジタル版アンケート調査 など <p>【中長期戦略】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界水準の温泉リゾート地 「日本遺産の町」つくり ・旅ナカでお金が落ちる仕組みや観光インフラの整備 ・自然の恵みに配慮する「責任ある旅行者」の来訪を誘導する仕掛けづくり（山護運動など） 		
実施主体	日本遺産を活かす会（地域連携DMO、町、観光協会、三徳山三佛寺）		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域コンセプトの浸透度	具体的な指標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産の認知度（旅行者） ・満足度「やや満足」以上
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	認知度：令和3年度：30% 令和4年度：40% 令和5年度：50% 満足度：令和3年度：60% 令和4年度：65% 令和5年度：70%		
事業費	令和3年度：1,000千円 令和4年度：1,000千円 令和5年度：1,000千円		

(事業番号 2-②)

事業名	広域連携・インバウンドモニターツアー		
事業内容	新型コロナウイルス感染症が収まった後の広域連携・インバウンドによる誘客促進に繋げるため、国内在住外国人等によるモニターツアーを誘致し、本町の日本遺産の課題と対策を整理する。		
実施主体	鳥取県、町、日本遺産を活かす会（県観光連盟、地域連携DMO、三徳山三佛寺）		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	モニターツアー数
実績値	平成30年度：－	令和元年度：－	令和2年度：－
目標値	令和3年度：1事業	令和4年度：2事業	令和5年度：2事業
事業費	令和3年度：－千円	令和4年度：－千円	令和5年度：－千円

(事業番号 2-③)

事業名	三徳山学術調査事業（修験道発掘調査等）		
事業内容	構成文化財の中心となる「三徳山」に関連する学術調査（発掘事業等）を今後も継続して行い、日本遺産のストーリーの継続的な磨き上げにつなげる。		
実施主体	教育委員会、町、日本遺産を守る会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	三徳山学術調査事業数
実績値	平成30年度：2事業	令和元年度：3事業	令和2年度：2事業
目標値	令和3年度：1事業	令和4年度：2事業	令和5年度：2事業
事業費	令和3年度：2,523千円	令和4年度：3,000千円	令和5年度：3,000千円

(事業番号 2-④)

事業名	ラドン泉の吸入による健康・予防治療効果研究事業		
事業内容	岡山大学等が実施している、「六感治癒」に果たすラドン泉の効果研究について、引き続き連携協力を図る。研究成果については、積極的に情報を発信し、三朝温泉の付加価値を高めることで、日本遺産のストーリーの継続的な磨き上げにつなげる。		
実施主体	町、岡山大学、日本原子力開発機構（人形峠環境技術センター）		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	調査事業数
実績値	平成30年度：1事業 令和元年度：1事業 令和2年度：1事業		
目標値	令和3年度：1事業 令和4年度：1事業 令和5年度：1事業		
事業費	令和3年度：4,000千円 令和4年度：4,000千円 令和5年度：4,000千円		

(事業番号 2-⑤)

事業名	名勝及び史跡三徳山・名勝小鹿渓保存活用計画策定事業		
事業内容	<p>歴史、文化、地形や植生などの共通性、関連性が示される名勝及び史跡三徳山と名勝小鹿渓について、一体的に保存活用計画を作成することによりその価値と課題を明確化する。また、保存管理、活用、整備、管理体制について方針を示し、各種保存活用事業の円滑な実施につなげる。</p> <p>本計画において、日本遺産であることの位置づけを記載し、日本遺産として活かす取組とのスムーズな連携を図る。</p> <p>※計画期間：令和4年4月1日～令和14年3月31日（10年間）</p>		
実施主体	教育委員会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	保存活用計画における位置づけ
実績値	平成30年度：	令和元年度：	令和2年度：
目標値	令和3年度：計画策定	令和4年度：	令和5年度：
事業費	令和3年度：1,041千円	令和4年度：0千円	令和5年度：0千円

(8) - 3 人材育成

(事業番号 3-①)

事業名	日本遺産の町「観光人財」育成プロジェクト		
事業内容	<p>世界水準の温泉リゾート地 日本遺産の町を目指して掲げる3つの将来像を実現するために、これからの“観光産業”を担う人づくりに取り組む。本プロジェクトにより観光人財を育成し、町観光産業の持続的発展の基礎を固める。</p> <p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光の持続的発展に向けた講演会 ・次代を担う人づくり事業（ワークショップ） ・三徳山と三朝温泉の人材交流事業 など 		
実施主体	三朝町日本遺産活用推進協議会、三朝町		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域活性化の活動頻度	具体的な指標	民間事業者向けワークショップの開催回数
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：2回 令和4年度：3回 令和5年度：3回		
事業費	令和3年度：300千円 令和4年度：300千円 令和5年度：300千円		

(事業番号 3-②)

事業名	日本遺産地域プロデューサー設置・育成事業		
事業内容	<p>日本遺産を通じた地域の活性化と地域経済への波及効果を高めるため、専門的知見と経験を有する地域プロデューサーを設置し、事業の効果的な推進を図る。</p>		
実施主体	日本遺産活用推進協議会、町		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域プロデューサー数	具体的な指標	地域プロデューサー数
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：1人 令和4年度：1人 令和5年度：1人		
事業費	令和3年度：300千円 令和4年度：3,300千円 令和5年度：3,300千円		

(事業番号 3-③)

事業名	地域民間プレーヤー養成事業		
事業内容	<p>(案内人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三徳山ガイドの育成 ・日本遺産のストーリーや構成文化財の案内・説明を行う、まちあるきガイドの継続した養成とガイドの質を向上するための研修を行う。 ・温泉に関する知識を有した温泉入浴アドバイザー（ラジムリエ）の登録者数を増やすことで、温泉文化や入浴作法を伝える。また、温泉の入浴作法は、外国人観光客向けに多言語パネルを入浴施設に掲出する等して、日本文化の理解に努めるよう積極的な発信を行う。 <p>(商品開発)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発に挑戦する民間プレーヤーの発掘と育成 <p>(もてなし：鳥取県観光誘客ディレクター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接客研修会 		
実施主体	日本遺産を活かす会（観光協会、三徳山三佛寺）、現代湯治推進協議会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域プレーヤー数	具体的な指標	三徳山ガイド、まちあるきガイド、ラジムリエ、新商品開発プレーヤーの数
実績値	平成30年度：59人 令和元年度：64人 令和2年度：78人		
目標値	令和3年度：85人 令和4年度：90人 令和5年度：95人		
事業費	令和3年度：865千円 令和4年度：865千円 令和5年度：865千円		

(事業番号 3-④)

事業名	文化財の守り人養成事業		
事業内容	<p>構成要素となる民俗文化財の継承に必要な人材育成を支援する。 また、他の地域組織や団体、旅行客を含む外部からの新しい人材の参加を積極的に受け入れることで持続可能な体制を構築する。町はこれに係る経費一部を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要無形民俗文化財「三朝のジンショ」 ・鳥取県指定無形民俗文化財「さいとりさし」 ・三朝町指定無形民俗文化財「三徳山御幸行列」 		
実施主体	三朝区陣所保存会・町さいとりさし踊り保存会・三徳山御幸行列保存会、日本遺産を活かす会（観光協会）、日本遺産を守る会、町、教育委員会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域プレーヤー数	具体的な指標	無形民俗文化財の継承に伴う参加人数
実績値	平成30年度：80人 令和元年度：80人 令和2年度：一人		
目標値	令和3年度：60人 令和4年度：160人 令和5年度：200人		
事業費	令和3年度：1,000千円 令和4年度：2,000千円 令和5年度：1,000千円		

(8) - 4 整備

(事業番号4-①)

事業名	三徳山遥拝所再整備事業		
事業内容	<p>日本遺産のストーリーを構成する文化財のうち、三佛寺奥院「投入堂」は日本を代表する国宝の建築物であるが、参拝するためには険しい行者道を登らなければならない、登ることができない訪問者にもその佇まいを体感していただけるよう、下界の県道付近から眺望できる遥拝所の再整備を行う。</p> <p>現在、周辺の山林樹木の成長により見えにくくなっているため、対岸の容易に目視できる場所へ再整備するもの。新たな遥拝所には、身障者用の駐車場や双眼鏡を設け、利便性の向上を図る。</p> <p>また、雨天や冬季間は入山禁止となるため、再訪を促すため誘客施設としての役割も担う。</p>		
実施主体	鳥取県、町		
事業期間	令和3年度～令和4年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	三徳山遥拝所利用者数
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：－ 令和4年度：30,000人 令和5年度：35,000人		
事業費	令和3年度：27,890千円 令和4年度：－ 令和5年度：－		

(事業番号4-②)

事業名	日本遺産ビジターセンター整備事業		
事業内容	<p>日本遺産を紹介するためのビジターセンターを三朝温泉に整備する。整備にあたっては、施設の運営等自走できるような仕組みづくりを念頭に、日本遺産のストーリーに触れ、訪問への誘導、あるいは再訪につなげるため、多くの方々の目に触れるよう資料展示と情報発信を行う。</p> <p>地元住民においても、地域の誇りを発信できる場所として認識していただき、伝統文化の保存継承にも結び付く展示内容とする。</p>		
実施主体	町、三朝町日本遺産活用推進協議会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	ビジターセンター利用者数
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：－ 令和4年度：－ 令和5年度：3,000人		
事業費	令和3年度：800千円 令和4年度：未定 令和5年度：未定		

(事業番号 4-③)

事業名	三徳山 VR (バーチャルリアリティ) 整備事業		
事業内容	<p>日本遺産のストーリーを構成する文化財のうち、行者道の起点に位置する三佛寺本堂と最終到達点にある投入堂、またその途中の文殊堂、鐘楼堂などは、長い石段や険しい山道の移動が難しい方や時間的制約のある方などの参拝ができない。</p> <p>このような方にも三徳山の魅力を体感していただくための手法の一つとして VR による参拝体験ができるようコンテンツを製作する。</p> <p>製作したコンテンツは、冬季間や荒天の場合、将来の誘客（訪問意欲の喚起につなげる）に向け活用するとともに、普段目にする事のない堂宇（どうう）内部の映像等も盛り込むことで、改めて三徳山への来山、三朝温泉への来訪を促す。</p>		
実施主体	鳥取県、町、教育委員会、日本遺産を活かす会（三徳山三佛寺）		
事業期間	令和 3 年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	VR 利用者数
実績値	平成 30 年度：－ 令和元年度：－ 令和 2 年度：－		
目標値	令和 3 年度：－ 令和 4 年度：2,000 人 令和 5 年度：3,000 人		
事業費	令和 3 年度：4,000 千円 令和 4 年度：－ 令和 5 年度：－		

(事業番号 4-④)

事業名	指定文化財等保存修理事業		
事業内容	<p>構成文化財を後世に引き継ぐための取り組みとして、名勝及び史跡三徳山や三徳山内の建造物群等について、適切な保存修理及び防災対策等を行い、三徳山来訪者に六根清浄の魅力を安全に体験していただくための環境整備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定重要文化財 文殊堂の屋根修繕 ・県指定文化財 十一面観音堂の堂宇修繕 		
実施主体	日本遺産を守る会、三徳山三佛寺、教育委員会		
事業期間	令和 4 年度～令和 5 年度		
事業評価指標	観光客の滞在時間の増加	具体的な指標	三徳山入込客数（暦年）
実績値	平成 30 年：40,537 人 令和元年：47,282 人 令和 2 年：33,026 人		
目標値	令和 3 年：33,000 人 令和 4 年：47,000 人 令和 5 年：63,000 人		
事業費	令和 3 年度：－ 令和 4 年度：未定 令和 5 年度：未定		

(事業番号 4-⑤)

事業名	日本遺産環境整備活動事業		
事業内容	<p>構成文化財等を後世に引き継ぐための取組として、三徳山三朝温泉を中心に参拝者、日本遺産三徳山三朝温泉を守る会会員、地元住民による環境整備活動を実施する。</p> <p>三徳山においては、投入堂までの参拝道の維持補修のため、小型土嚢を参拝者等へ持ち上げを依頼する『山護（やまもり）運動』を継続的に実施する。</p> <p>また、三朝温泉では、三朝地域の住民が、おもてなしの一環として地域全体で清掃活動を実施する。</p> <p>これらの地域資源を守り伝える活動により、保全・活用への意欲や大切に想う気持ちを育てることに繋げる。</p>		
実施主体	日本遺産を守る会、三徳山三佛寺		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域プレーヤー数	具体的な指標	ボランティア参加人数
実績値	平成30年度：700人 令和元年度：725人 令和2年度：650人		
目標値	令和3年度：650人 令和4年度：725人 令和5年度：750人		
事業費	令和3年度：100千円 令和4年度：100千円 令和5年度：100千円		

(事業番号 4-⑥)

事業名	窓口情報一元化に向けた機能充実		
事業内容	<p>三朝温泉観光商工センター（通称：ほっとプラ座）は、外国人観光案内所として、日本政府観光局（JNTO）認定制度によるカテゴリⅡを取得し、外国人観光客の問い合わせや宿泊先の紹介、タクシーの手配からレンタサイクルの準備まで、専属のスタッフを配置しサービスを提供している。今後も観光客のニーズに対応すべく機能の充実を図る。</p>		
実施主体	日本遺産を活かす会（観光協会、旅館組合）		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	問合せ人数
実績値	平成30年度：5,400人 令和元年度：5,400人 令和2年度：3,600人		
目標値	令和3年度：5,400人 令和4年度：6,200人 令和5年度：7,300人		
事業費	令和3年度：- 令和4年度：- 令和5年度：-		

(事業番号 4-⑦)

事業名	山陰地域限定特例通訳案内士活用事業		
事業内容	<p>コロナ禍収束後のインバウンド需要を見据え、山陰地域限定特例通訳案内士に本町の日本遺産のストーリーやその魅力を教授し、通訳内容の充実による外国人旅行者の満足度の向上と誘客促進につなげる。</p> <p>また、本町在住の案内士と連携を図り、「平日ワンコイン通訳」といった独自のサービスを提案するなど、他の観光地に先駆けた環境整備に取り組む。</p>		
実施主体	日本遺産を活かす会（観光協会、地域連携DMO）		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	通訳案内士を利用した回数
実績値	平成30年度：一件 令和元年度：一件 令和2年度：一件		
目標値	令和3年度：2件 令和4年度：15件 令和5年度：20件		
事業費	令和3年度：- 令和4年度：- 令和5年度：-		

(事業番号 4-⑧)

事業名	三朝温泉BWA（地域広帯域移動無線アクセス）整備事業		
事業内容	<p>三朝温泉の通信環境の整備を進める。令和2年度に町が整備した光ファイバー網（FTTH化）を活用し、ケーブルテレビ事業者と連携して温泉街に地域BWAの拠点を設置する。（令和4年度予定）</p> <p>これにより、温泉街におけるネットワークへのワイヤレス接続が広範囲で容易となることから、インバウンド対策などにつながる情報通信環境の改善を図り、情報発信を支えていく。</p>		
実施主体	日本海ケーブルネットワーク(株)、町		
事業期間	令和4年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	地域BWA契約数
実績値	平成30年度：一人 令和元年度：一人 令和2年度：一人		
目標値	令和3年度：一人 令和4年度：10件 令和5年度：20件		
事業費	令和3年度：一 千円 令和4年度：10,000 千円 令和5年度：一 千円		

(8) - 5 観光事業化

(事業番号5-①)

事業名	日本遺産インバウンド誘客促進事業		
事業内容	コロナ収束後のインバウンド誘客に向けた取り組みとして、日本遺産オンラインガイドツアーを実施し、日本に興味を持った外国人の訪問意欲の向上を図る。(姉妹都市提携での緊密な連携やチャーター便の運航実績等を活かし、フランス・台湾に焦点を当て実施) また、インバウンドモニターツアーやオンラインガイドツアーに対する参加者の意見等を踏まえ、コロナ禍収束後に実施する外国人向け「日本遺産体験ツアー」のプランを検討する。		
	日本遺産を活かす会(観光協会、旅館組合、地域連携DMO)		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	外国人観光客数	具体的な指標	外国人観光客数(暦年)
実績値	平成30年:20,363人 令和元年:17,931人 令和2年:1,689人		
目標値	令和3年:1,000人 令和4年:18,000人 令和5年:20,000人		
事業費	令和3年度:1,766千円 令和4年度:4,000千円 令和5年度:4,500千円		

(事業番号5-②)

事業名	日本遺産関連商品企画開発事業		
事業内容	<p>日本遺産関連商品の企画開発を行う。ふるさと納税での返礼品に対応できる商品メニューや、手に取ってもらえるような商品の開発のほか、エリア内での体験と組み合わせた旅行商品の造成を行うことで、日本遺産の周知と消費単価の向上を図り、経済の好循環につなげる。</p> <p>物販例：日本遺産ロゴ入りマスク、三朝米 サービス例：観（眼）・聴（耳）・香（鼻）・触（身）・味（舌）・心（意）の6つの感性に訴えるメニューの開発案：</p> <p>三朝温泉：（観）ジンショ大綱引き体験企画 （聴）バイオリン美術館でのコンサート企画 （香）濃縮三朝温泉水の商品化</p> <p>三徳山：（眼）宝物殿での文化財の特別拝観 （舌）精進料理の食事作法の体験</p> <p>全体：「名湯と修験の道を旅する」プラン（三朝温泉～三徳山） 日本遺産ロングトレイル（大山～三徳山） 企業研修向参拝プラン（コミュニケーションマネジメント強化策として）</p>		
実施主体	日本遺産を活かす会（観光協会、旅館組合）、地域連携DMO、三徳山三佛寺		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	新たな商品数
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：2商品 令和4年度：4商品 令和5年度：6商品		
事業費	令和3年度：600千円 令和4年度：600千円 令和5年度：600千円		

(事業番号5-③)

事業名	三徳山三朝温泉・自転車で巡る日本遺産周遊事業		
事業内容	日本遺産のストーリーを体験するうえで、三朝温泉から三徳山までの移動手段として電動アシスト付自転車を使うことを提案し、ゆっくりとした時間が流れるなかで田舎の佇まいを満喫しながら三徳山までの道のりをサイクリングで楽しんでいただく。健康志向の高まりや環境へのやさしさ、移動の自由度など、旅行者の新しいニーズに対応していく。 ※電動アシスト付自転車はR2年度 4台整備済		
実施主体	日本遺産を活かす会（観光協会）		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	2次交通の整備	具体的な指標	自転車利用者数
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：40人 令和4年度：200人 令和5年度：250人		
事業費	令和3年度：20千円 令和4年度：20千円 令和5年度：20千円		

(事業番号5-④)

事業名	教育旅行誘致促進事業		
事業内容	コロナ禍の影響によりマイクロツーリズムの考え方が浸透し、教育旅行の受皿として県内や近隣の県からの需要が増えつつある。この機会に日本遺産のストーリーやバイオリン美術館といった文化・歴史体験の環境が整っていることをPRし、新たな誘客推進を図る。また、鳥取県中部という地理的環境を活かし、県内の日本遺産で県東部の「麒麟獅子」や県西部の「大山」と連携し、三朝温泉での宿泊を組み合わせたプランでの誘客促進を目指す。		
実施主体	日本遺産を活かす会（観光協会、旅館組合）、教育委員会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	教育旅行での宿泊団体数
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：14団体		
目標値	令和3年度：31団体 令和4年度：35団体 令和5年度：40団体		
事業費	令和3年度：－ 令和4年度：－ 令和5年度：－		

(事業番号5-⑤)

事業名	日本遺産三徳山三朝温泉連泊推進事業		
事業内容	<p>日本遺産のストーリーは、「入浴→参拝→入浴」の体験であり、三朝温泉での連泊が基本となる。このため、連泊プランの推進に日本遺産関係者全体で取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三朝温泉滞在時の過ごし方を充実させるため、現代湯治プランの推進や町外周辺の観光地等を取り入れたメニューの造成。 ・ストーリーの体験や周辺観光地への訪問を促進する、割引クーポン事業の提案。 		
実施主体	日本遺産を活かす会（観光協会、旅館組合、三徳山麓会）		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	連泊した宿泊客数
実績値	平成30年度：14,062人 令和元年度：13,098人 令和2年度：10,725人		
目標値	令和3年度：10,700人 令和4年度：13,000人 令和5年度：14,000人		
事業費	令和3年度：27,000千円 令和4年度：10,000千円 令和5年度：10,000千円		

(事業番号5-⑥)

事業名	「名湯と修験の道を旅するプラン」事業		
事業内容	<p>日本遺産のストーリーに基づき、三朝温泉での癒しと清め、三徳山での修行と祈りをキーワードに、厳格な体験コースとして組み立てる。個の人生を見つめ、煩惱に立ち向かう場を提供する企画として修験道の三徳山と六感治癒の三朝温泉を組み合わせたプランとする。</p> <p>令和3年度：プランの造成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「名湯と修験の道を旅する」プラン <p>令和4年度～令和5年度：プラン実施</p> <p>※令和4年度は「三佛寺投入堂国宝指定70周年」であり、特別拝観などを組み込み、付加価値の高い旅行商品とする。</p>		
実施主体	地域連携DMO、日本遺産を活かす会（観光協会、旅館協同組合）		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	ツアー参加者
実績値	平成30年度：—人 令和元年度：—人 令和2年度：—人		
目標値	令和3年度：10人 令和4年度：50人 令和5年度：70人		
事業費	令和3年度：30千円 令和4年度：150千円 令和5年度：210千円		

(事業番号 5-⑦)

事業名	季節限定直行バス運行事業		
事業内容	交通の利便性が劣る山陰地方において、特に積雪のある冬季間の誘客を図るため、関西・山陽方面からの冬季限定の直行バスを運行し、誘客促進を図る。		
実施主体	日本遺産を活かす会（旅館組合）		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	直行バス利用者数
実績値	平成30年度：5,499人 令和元年度：4,904人 令和2年度：1,052人		
目標値	令和3年度：1,000人 令和4年度：5,000人 令和5年度：5,500人		
事業費	令和3年度：1,263千円 令和4年度：1,263千円 令和5年度：1,263千円		

(事業番号 5-⑧)

事業名	日本遺産を活かす景観計画策定事業		
事業内容	<p>日本遺産の町として、景観はストーリーを活かすうえで大切な資源であり、守るべき財産である。本町は平成23年に景観行政団体に移行しており、日本遺産のストーリーの舞台となる三徳山・三朝温泉エリアにおいて、現在の景観を守るとともに、景観計画の策定を通じて、今以上に美しい風景に向けて磨き上げていく。</p> <p>【計画策定に向けてのスケジュール】 令和3年度 計画の策定に向けた準備 令和4年度 景観条例と計画策定業務 令和5年度 計画に基づく景観行政開始</p>		
実施主体	町、日本遺産を守る会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	計画策定会議の開催回数
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：3回 令和4年度：6回 令和5年度：6回		
事業費	令和3年度：一千円 令和4年度：5,000千円 令和5年度：一千円		

(8) - 6 普及啓発

(事業番号6-①)

事業名	日本遺産認知度調査事業（地域住民・事業者等）		
事業内容	地域住民や事業者を対象に「日本遺産」(ストーリー)に関する認知度や守る活動、活かす取組等に関する調査を行い、課題等を整理し、中長期戦略（学習の内容やボランティア活動の活性化、旅ナカでお金が落ちる仕組み、観光インフラの整備等）に反映させる。 ・住民向け認知度調査 （学習内容や普及啓発活動の評価と新しい事業提案など） ・事業者向け認知度調査 （経済活動の実績評価と新しい事業提案など）		
実施主体	日本遺産を活かす会、日本遺産を守る会、町、教育委員会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	日本遺産の認知度（住民等）
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：70% 令和4年度：80% 令和5年度：90%		
事業費	令和3年度：50千円 令和4年度：50千円 令和5年度：50千円		

(事業番号 6-②)

事業名	「日本遺産認定三朝町民の日」推進事業		
事業内容	<p>平成27年4月24日の日本遺産認定日にちなみ、4月24日を「日本遺産認定三朝町民の日」に制定し、町民が、日本遺産について理解と関心を深めるとともに、誇りと愛着心を育み、先人に感謝をしながらその資源を大切に守り、積極的に活かすことを期する日」として関連する推進事業を実施する。</p> <p>全町民や日本遺産を訪れる旅行者を対象に、日本遺産の魅力を印象づける取組を実施し、町民を始めとする関係者への普及啓発につなげる。</p> <p>・みんなで取り組む日本遺産PR大作戦</p> <p>官民が連携し、観光素材等を活用した日本遺産ロゴ入り名刺やポロシャツ等を作成し、「日本遺産のある町」の町民活動の機運を盛り上げる。</p>		
実施主体	日本遺産を守る会、日本遺産を活かす会、町		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	関連イベント参加者総数
実績値	平成30年度：－	令和元年度：－	令和2年度：－
目標値	令和3年度：－	令和4年度：500人	令和5年度：1,000人
事業費	令和3年度：－千円	令和4年度：250千円	令和5年度：500千円

(事業番号 6-③)

事業名	大学・行政との協力連携事業		
事業内容	<p>岡山大学・三朝町・鳥取県（OMT協議会）による温泉等地域資源を活用した健康増進プラン研究事業への継続的な取組を強化し、日本遺産の魅力アップにつなげる。</p> <p>また、岡山大学外国人留学生及び鳥取大学学生団体による構成文化財無形民俗行事への参加を通じて、文化財を継承する担い手の確保と育成、さらにはSNSを使った情報発信に取り組む。</p> <p>鳥取短期大学と連携しフィールドワークの一環として、日本遺産の滞在メニューの造成や若者世代のニーズ調査等を行い、必要に応じて受地環境の整備に反映させる。</p> <p>令和4年度からは台湾台中市静宜大学の学生を旅館組合が長期インターンシップとして受け入れることが決定しており、台中市温泉観光協会との連携もあることから、情報発信を通じて相互の誘客に繋がる取組を進めていく。</p>		
実施主体	日本遺産を活かす会（旅館組合、観光協会）、日本遺産を守る会、町、教育委員会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	学習体験をした生徒の数	具体的な指標	学習体験をした学生の数
実績値	平成30年度：20人 令和元年度：15人 令和2年度：30人		
目標値	令和3年度：30人 令和4年度：50人 令和5年度：50人		
事業費	令和3年度：－ 令和4年度：－ 令和5年度：－		

(事業番号6-④)

事業名	G I G Aスクール構想を活用した町内小中学校との連携事業		
事業内容	<p>1人1台のICT端末を配備し、学習できる環境整備を行うG I G Aスクール構想を活用し、日本遺産の取組を「地域を知る学習」として展開する。また、これまで同様に日本遺産担当者による現地学習等も併せて行い、理解度のさらなる向上を目指す。</p> <p>構成文化財「三朝のジンショ（大綱引き）」は、中学生が直接参加して体験し、そのことをICT端末を活用して台湾やフランスの交流先の中学生に対し情報発信するなど、日本遺産という町独自の文化を体験学習しながら、併せて世界へ発信することに取り組む。</p>		
実施主体	日本遺産を守る会、町、教育委員会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	地域の文化に誇りを感じる児童生徒の割合
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：60% 令和4年度：70% 令和5年度：80%		
事業費	令和3年度：－ 令和4年度：－ 令和5年度：－		

(事業番号6-⑤)

事業名	町内小中学校教職員を対象とした日本遺産研修事業		
事業内容	<p>町内の教職員を対象として日本遺産を中心とした本町の地域資源を現地学習する研修会を継続して実施する。これにより、地域学習の際の教材開発や授業案につなげる。</p>		
実施主体	日本遺産を守る会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	地域の文化に誇りを感じる児童生徒の割合
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：60% 令和4年度：70% 令和5年度：80%		
事業費	令和3年度：30千円 令和4年度：30千円 令和5年度：30千円		

(事業番号 6-⑥)

事業名	「日本遺産コーナー」の拡充（町報・パネル展）		
事業内容	町報に日本遺産コーナーを設け、構成文化財等の魅力を定期発信するとともに、公共施設内等でパネル展示による日本遺産の紹介を行うことで、町民が「日本遺産」に触れる機会を増やし、併せて理解の深まりにつなげる。		
実施主体	日本遺産を守る会、町、教育委員会		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	日本遺産の認知度	具体的な指標	日本遺産の認知度（住民等）
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：70% 令和4年度：80% 令和5年度：90%		
事業費	令和3年度：-円 令和4年度：-円 令和5年度：-円		

(8) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-①)

事業名	日本遺産情報発信ビジョン策定事業		
事業内容	<p>光ケーブルを活用した町内ネットワークが完成し、三徳山・三朝温泉エリアにおいても高速インターネットサービスが提供され、三朝温泉ではBWA（地域広帯域移動無線アクセス）システムの導入も予定されている。</p> <p>この機会に、デジタルマーケティングへの対応に向けて、日本遺産に係る情報発信体制とその環境整備について検討し、新たな情報発信指針等を策定することにより、効果的な情報発信と情報環境の充実を図り、誘客の促進へつなげる。</p> <p>【対象となる情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産ポータルサイト ・日本遺産ホームページ（町公式） ・SNSの活用方法 ・YouTubeチャンネルの立ち上げ 		
実施主体	日本遺産を活かす会（観光協会、地域連携DMO）、町		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	ウェブサイトの ページビュー数	具体的な指標	町公式HP ページビュー数
実績値	平成30年度：105,926 令和元年度：106,157 令和2年度：33,442		
目標値	令和3年度：35,000 令和4年度：106,000 令和5年度：108,000		
事業費	令和3年度：一千円 令和4年度：200千円 令和5年度：一千円		

(事業番号7-②)

事業名	情報媒体のデジタル化事業		
事業内容	<p>誘客・PR活動の拡大展開や多言語対応などタイムリーな情報提供の実現に向けて、情報媒体のデジタル化を進める。</p> <p>新型コロナ感染症の拡大に伴い、従来の観光PRの手法に加えて、デジタルコンテンツによる対応へのニーズが高まっており、時代に即した提供方法を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産パンフレットのデジタル化 ・WEBアンケートの実施、旅行者のデータ分析、マーケティング等 		
実施主体	日本遺産を活かす会（観光協会、地域連携DMO）、町		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	地域コンセプトの浸透度	具体的な指標	デジタルマップ利用者数 (アクセス数、閲覧回数)
実績値	平成30年度：－ 令和元年度：－ 令和2年度：－		
目標値	令和3年度：1,000人 令和4年度：2,000人 令和5年度：3,000人		
事業費	令和3年度：1,000千円 令和4年度：1,000千円 令和5年度：1,000千円		

(事業番号7-③)

事業名	三朝温泉観光素材作成事業		
事業内容	<p>撮り溜めた写真・動画など、三徳山や三朝温泉の素材を活用し、日本遺産の魅力を短時間で紹介できる情報発信コンテンツとして製作する。作成したコンテンツはウェブサイトでの掲載やマスコミへの素材提供等、イベント時のデジタルサイネージでも活用する。</p> <p>また、観光素材や「六根清浄と六感治癒の地」のロゴマーク等は、届け出を必要とするフリー素材として整理し、関係事業者やDMOによる利用を通して、日本遺産のPRにつなげる。</p>		
実施主体	日本遺産を活かす会（観光協会、三朝町商工会、地域（広域）連携DMO）		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	その他	具体的な指標	観光素材を活用した情報発信回数
実績値	平成30年度：50回 令和元年度：43回 令和2年度：61回		
目標値	令和3年度：60回 令和4年度：70回 令和5年度：75回		
事業費	令和3年度：100千円 令和4年度：100千円 令和5年度：100千円		

(事業番号 7-④)

事業名	町公式日本遺産HP・日本遺産ポータルサイト等広報媒体の活用		
事業内容	三朝町日本遺産HP等の多言語化（英語・仏語・韓国語・繁体字・簡体字）に対応している広報媒体を活用し、こまめな情報発信を継続して日本遺産の周知を図る。		
実施主体	日本遺産を活かす会（観光協会）、町		
事業期間	令和3年度～令和5年度		
事業評価指標	ウェブサイトの ページビュー数	具体的な指標	町日本遺産公式HPのペ ージビュー数
実績値	平成30年度：105,926	令和元年度：106,157	令和2年度：33,442
目標値	令和3年度：35,000	令和4年度：106,000	令和5年度：108,000
事業費	令和3年度：120千円	令和4年度：120千円	令和5年度：120千円